

ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画



令和3年1月

[令和3年3月19日 国登録]

岐阜市

目 次

1	市町村及び河川の概要	1
1	市の概要	1
2	市内の河川の概要	1
2	水辺とまちづくりに関する基本方針	10
■	かわまちづくりの基本コンセプト	18
■	かわまちづくりの基本理念	18
■	かわまちづくりの基本方針	19
■	かわまちづくりの取組方針	19
3	ソフト施策の個別施策計画書	26
4	支援整備内容の概要（ハード施策）	29
5	ハード施策の個別整備計画書①	30
	ハード施策の個別整備計画書②	34
	ハード施策の個別整備計画書③	36
6	その他特筆すべき事項	38
7	参考資料	45

市町村及び河川の概要

1 市の概要	
① 都道府県名	岐阜県
② 市町村名	岐阜市
③ 人口	407,387 人（令和 3 年 1 月 1 日現在）
④ 面積	203.60 km ² （東西 18.8 km、南北 21.3 km）
⑤ 市の特色	当市は岐阜県の県都であり、県南西部に位置し、名古屋市から約 30 km の距離にあります。 北部には標高 300m に及ぶ山々が連なり、中央部には標高 329m の金華山がそびえ、清流長良川が東西を貫流するなど、山紫水明の美に恵まれています。かつて、斎藤道三公や織田信長公が礎を築いた城下町を有し、その町並みは現在、長良川や金華山などと合わせ、「長良川中流域における岐阜の文化的景観」として、国の『重要文化的景観』に選定されています。また、古くは、江戸時代の中山道加納宿や鮎鮒を献上するルートである御鮎街道を通じ、交通の要衝として栄えました。近年は、東海道線沿線の主要都市として発展し、本市を代表する観光資源である岐阜城や金華山、岐阜公園等に多くの観光客が訪れ、また、長良川において、1300 年以上の歴史を誇るぎふ長良川の鵜飼が多くの方々に親しまれるなど、歴史・伝統文化・自然を感じられるまちとして発展を遂げています。  長良川  ぎふ長良川の鵜飼  花火大会  岐阜城  川原町
2 市内の河川の概要	
① 主な河川	【長良川（一級河川木曽川水系、流域面積 1,985 km²、幹川流路延長 166 km）】 長良川は、岐阜県郡上市の大日ヶ岳にその源を発する一級河川で、木曽川、揖斐川とともに木曽三川流域を形成しています。源泉からは南に流れ下り、関市と岐阜市を貫流して、伊自良川など多くの支流を集めつつ、雄大な濃尾平野を流下し三重県桑名市で揖斐川と合流して伊勢湾に流れ込みます。木曽三川は、長い治水の歴史でも有名です。直近では、平成 16 年 10 月の台風 23 号出水において、長良川の基準地点である忠節で観測史上最大流量を記録し、長良川河口堰の設置により可能となった河道浚渫が実施されたことにより、下流部での被害は免れたものの、岐阜市福富地区などで浸水被害が発生したため、対策として緊急的な河道掘削が実施されました。その後も、木曽川水系河川整備計画に基づき河道掘削等が実施され、治水安全度の向上が図られています。高知県の四万十川や静岡県柿田川とともに日本三大清流の一つに数えられ、流域人口は 80 万人を超えますが、環境基準において、上流域で水質 AA、中流域で水質 A に類型指定されるとともに、「長良川中流域における岐阜の文化的景観」は国の重要文化的景観に選定されています。また、毎年 5 月 11 日から 10 月 15 日まで開催される長良川鵜飼及び小瀬鵜飼は、日本唯一の皇室御用達の鵜飼であり、その技術は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。その他にも長良川には以下の特色があります。

○名水百選（昭和 60 年 3 月）

環境省が、全国各地の湧水や河川の中から水質、水量、周辺環境（景観）、親水性の観点からみて、保全状況が良好なこと、地域住民等による保全活動があること等を条件に選定を行った「名水百選」に長良川（中流域）が選出されています。

○旧厚生省おいしい水研究会の「おいしい水」（昭和 60 年 4 月）

岐阜市は、旧厚生省が設立したおいしい水研究会により水道水のおいしい都市の 32 都市に選定されています。

○残したい日本の音風景 100 選（平成 8 年）

環境省が、全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残したい「日本の音風景 100 選」に長良川の鵜飼が選ばれています。かがり火の下で素朴に、そして華やかに繰り広げられる 1300 年の時を越えた伝統漁法は、鵜を励ますために船べりを叩く「ドンドン」という音や鵜匠の「ホウホウ」という掛け声とともに、辺り一帯を幻想的な古代絵巻の世界に満たします。

○日本の水浴場 88 選（平成 13 年 3 月）

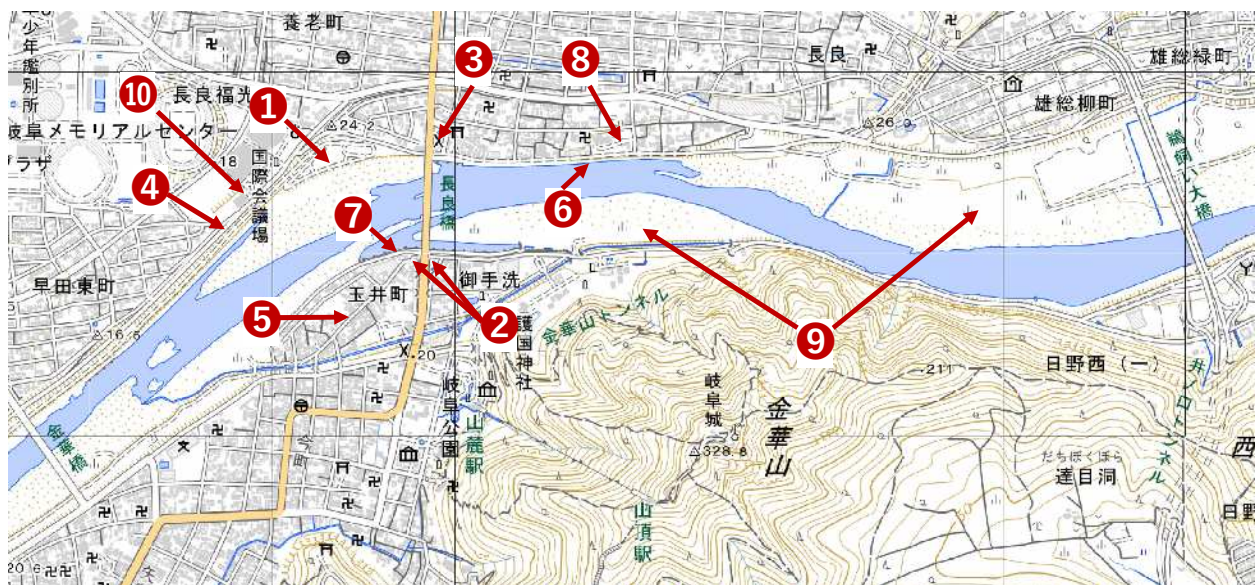
環境省が、水質が良好で快適な水浴場として選定を行った「日本の水浴場 88 選」に、長良川が選出されています。

② 河川と市や民間事業者との関わり

長良川は、当市の中央を流れ、季節や時間帯により変化する川面と白い玉石が美しい河川景観を創出し、当市の景観の骨格を形成しています。市内の上流域から下流域にかけて、土地利用等の違いにより様々な表情を見せ、上流は、河川敷に竹林や雑木林が広がる保全・保護を必要とする水辺空間を形成し、下流は、主に運動場や牛の放牧場等として利用されています。中流域は、中心部にありながら、岐阜城を頂く金華山を背景とした自然の美しい眺めを創出するとともに、伝統的な長良川鵜飼や花火大会をはじめとするイベントが開催され、多数の宿泊施設が立地する観光地として整備されています。

市民生活においては、欠かすことのできない水道原水を長良川水系から取水しているほか、河畔にプロムナードやジョギングコース等が整備され、市民に親しまれる憩いの場所となっています。長良川は、当市にとって決しておろそかにできない大切な資源であるとともに、重要な財産であり、当市を代表する象徴の一つとなっています。

③ これまで実施済みの関連施策



❶ 長良川公園整備（昭和 44 年）

長良橋北詰にある河川敷公園です。ここは金華山をバックに運動施設などに利用される魅力的な空間となっています。園内には芝生広場やインラインスケートコースなどがあり、花火大会やマラソン大会などを中心として各種イベントに利用されています。



❷ 長良川河畔ポケットパーク整備 [鵜かがり（昭和 56 年）]・[名水（昭和 61 年）]

長良橋南詰にあり、鵜飼観覧や川原町、岐阜公園、金華山などの散策の途中で休憩できる公園です。松尾芭蕉が鵜飼を詠んだ句「おもしろうてやがて悲しき鵜舟かな」の句碑があります。



❸ 長良広場整備（平成 10 年 3 月）

自然景観を最大限に発揮して市民はもとより外来者にも親しみの持てる「憩いの場」となっています。長良川国際会議場と岐阜公園、金華山を結ぶプロムナードの中間地点としてだけでなく、長良川河畔の旅館街の入口でもあり、観光客に対し、岐阜をアピールする場所でもあります。



❹ 高橋尚子ロード整備（平成 13 年 5 月）

シドニーオリンピック、女子マラソンの金メダリスト高橋尚子選手が、高校時代に練習していた長良川河川敷です。長良橋から忠節橋までの 2.5km を「高橋尚子ロード」として整備されました。金華山と長良川の自然に囲まれ、多くの地元ランナーに愛されるジョギング、ウォーキングコースとなっています。



⑤ 川原町通り整備

・ 景観まちづくり活動支援（平成 15 年～）

岐阜らしさあふれる、賑わいのある町並み空間の創出や自然と調和し、歴史・文化資源を生かした町並みを保全、継承するため、景観まちづくり活動に対する支援を行っています。

・ 無電柱化、道路修景（平成 20 年）

川原町地区の「川原町通り」は、戦国江戸時代から人々の往来や物流の街道筋として位置付けられ、現在も江戸時代から明治時代に建てられた商家や町家が建ち並ぶ町並みとなっています。こうした歴史的な景観を後世に残しつつ、より美しい景観の形成が求められる中で建物の保存と併せ、道路景観の向上を進めるため、無電柱化や道路修景による整備が行われました。

◆ 景観まちづくり活動支援



◆ 無電柱化、道路修景



⇒



⑥ 長良川右岸プロムナード（平成 17 年・平成 29 年）

長良川の鵜飼が行われる長良川の右岸に位置する全長約 650mの遊歩道です。原則車両を進入できないようにし、自転車・歩行者の道路空間とすることで市民や来訪者の「憩いの場」として、また、街路灯を鵜飼観覧の妨げとならないようにすることで風情ある川辺を創り出しています。小段にウッドデッキを張ることにより、歩きやすく、歩道と一体となった景観を創り出すとともに、木工沈床を用いて魚介類の待避や生育場所を設けるなど、環境にも配慮しています。平成 17 年に整備した後、長良川うかいミュージアムがオープン（平成 26 年）し、また鵜飼屋地区が重要文化的景観「長良川中流域における岐阜の文化的景観」として選定（平成 25 年）されました。一方で、利用者から“車がスピードを出さないようにしてほしい”、“夜が暗く歩きにくい”といった意見を参考に、長良川右岸プロムナードの安全性をさらに高めるとともに、良好な景観の維持保全に配慮した“道づくり”を目指し、平成 29 年に再整備が行われました。



⑦ 鵜飼観覧船乗船場付近の護岸修繕・景観形成（平成 21 年 3 月）

この空間は、歴史性を踏まえた水辺空間として、風光明媚な景観を活かした水辺散策道を創出しています。玉石積み護岸とパラペットによる特殊堤と鵜飼観覧船乗船場施設において、老朽化や基礎部の空洞化が生じていたため、その対策として、特殊堤の補強と低水護岸の設置を行い、治水安全度の向上が図られました。屋形船や長良川の清流を眺めながら情緒豊かに散策できるよう伝統を偲ばせる玉石積み護岸による修景や階段護岸により利便性と親水性を確保したのになっています。

整備前

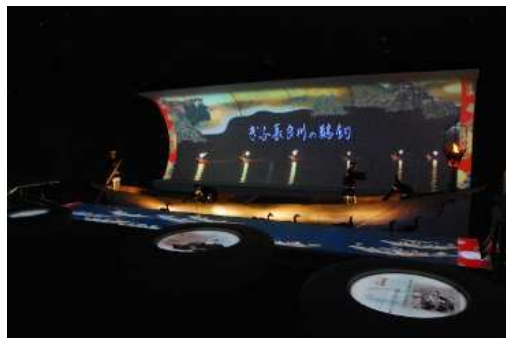


整備後



⑧ 岐阜市長良川鵜飼伝承館整備（平成 24 年 8 月）

長良川の鵜飼を護り、伝え、広める活動を通じて人々が集い交流する場の形成を目的に、岐阜市長良川鵜飼伝承館は、「長良川うかいミュージアム」の愛称で設置されました。この施設は、鵜飼文化の伝承と観光の振興に寄与するため、鵜飼文化の魅力向上と鵜飼文化の観光資源としての活用を図り、誘客に努めています。



⑨ 砂礫河原再生（平成 21～28 年再生事業実施）

長良川の中流域では、アユ等の産卵床となっている瀬、コアジサシの繁殖場となっている砂礫河原等の良好な自然環境の保全に努めています。平成 21～28 年にかけては、長良橋～鵜飼大橋間の砂礫河原を対象に再生事業が実施されました。

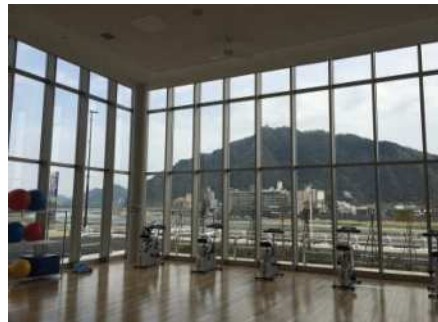
平成 30 年 7 月に発生した 6,000m³/s 規模の出水では、外来植物シナダレスズメガヤが減少し、礫河原が拡大する一方で、河原固有植物であるカワラヨモギ、カワラハハコが大幅に減少しました。再生した砂礫河原の保全、砂礫河原在来種・貴重種保全及び外来種駆除については、今後も継続的なモニタリングにより状況を把握していく必要があります。



⑩ 岐阜市長良川防災・健康ステーション整備（平成 28 年 4 月）

市民の健康づくりの拠点として、現在ある柳ヶ瀬健康ステーションの 5 倍の運動・交流スペースを有し、平常時は健康の保持と増進ために活用されています。

また、災害時は、市民の安全で安心な生活を確保するため、防災活動の拠点として活用されています。



④ 市民や民間事業者による河川利活用状況

○河川環境学習と川を守る活動

長良川を中心とした河川的环境保全を図るため、流域の多数の市民や企業、行政が連携して、豊かな自然と生態系を取り戻す活動を推進するとともに、節度ある利用など河川と共生する施策を創出・実践して、人とともに生きる良好な河川環境を後世に引き継ぐ取り組みが進められています。具体的には、水生生物の調査などの環境学習、自然体験学習を通して水辺に生息する生物を観察し、河川の水質保全や河川愛護などへの理解を深め、環境問題への関心を高める取り組みです。また、日ごろは、長良川の中流域を中心に河原の清掃活動が実施され、最終的には伊勢湾に漂着するごみの量を減らすため、長良川の源流から河口まで流域で活動する団体等と協働し、長良川を守るネットワーク化が進められ、広域的な活動が推進されています。



○長良川花火大会（昭和 21 年～）

終戦翌年の昭和 21 年 8 月に、岐阜新聞・岐阜放送により、長良川河畔にて花火大会（「全国煙火大会」）が開催されました。復興・岐阜を願い打ち上げられた花火は、敗戦に打ちひしがれていた岐阜の市民に生きる希望を与えました。戦後最初に開催された花火大会は、その年の翌年から名称を「全国花火大会」に変更して行われました。8 月の第 1 土曜日に長良川河畔で開催し、また同じ場所で前週（7 月の最終土曜日）に開催される中日新聞社主催の全国選抜長良川中日花火大会と合わせて、「長良川花火大会」と呼ばれています。



○長良川河川敷における竹林広場の保護と活用（平成 8 年～）

平成 8 年から 9 年にかけて、市が長良川右岸河川敷を自然体験できる竹林広場として整備を行いました。

この広場は、ヒメボタルの生育環境に適した場所となっておりボランティア団体などによる竹林整備や子どもたちへの竹細工を使った遊びなどを通じ、環境保全活動や環境教育活動が行われています。



○ぎふ・あかり灯ウォーク（平成 14 年～16 年）

平成 14 年から 3 年間、岐阜の新しい夏景色を創出する「ぎふ・あかり灯ウォーク」が長良川右岸プロムナードを中心とした長良川河畔一帯で開催されました。長良川であかり、伝統文化産業でもある和紙提灯にこだわった新たなまつりを作りたい、さらに、岐阜のスローライフを象徴するイベントを行いたいとの思いから企画されました。金華山を背景に長良川河畔一帯のライトダウンした闇の中を浴衣に身を包んだ約 3,000 人の参加者が手にする提灯あかり、置き提灯、鵜飼の篝火の 3 つの炎が一体となって彩るあかり景色を創出しました。



○こよみのよぶね（平成 18 年～）

鵜飼観覧船乗船場前から長良川右岸プロムナードを中心とした河畔一帯において、地元の竹と和紙を利用し制作された暦を表す巨大数字行灯（1～12）12 個と開催年の干支を示す行灯が屋形船に乗せられ、冬至の日に金華山の麓の長良川を流れます。幻想的な景色を見ながら、過ぎ行く時を振り返り、また来る日に思いをはせる岐阜の冬の風物詩です。



○長良川おんぱく（長良川温泉泊覧会）（平成 22 年～）

当市の観光振興、交流人口の増加を図るため、平成 22 年から長良川流域の文化やグルメの魅力を体験する文化交流イベントが開催されています。長良川流域ならではの体験、アクティビティがまちの至るところで限定期間内に 100 以上のプログラムとして開催されています。地元で暮らす人たちが企画・ガイドを行うことで自然、文化、食など岐阜の地域の魅力の発信がなされています。令和 2 年から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン体験などの非接触型の体験手法も積極的に取り入れられています。



○結の舟（平成 26 年～）

平成 26 年より若者に川を身近に感じてほしい、少しでも川に関心を持ってほしいとの思いから始まった長良川の若手漁師による、漁船クルーズツアー。川漁師しか乗れない漁船に乗り、長良川を周遊、操船体験などを楽しみ、川漁も間近で体験できます。全国でも珍しい内水面漁業を体感できるツアーとして個人観光客を迎え入れています。



○清流長良川の鮎のPR（平成28年～）

平成27年12月に「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されたことを記念して、毎年7月の第4日曜日に「清流長良川の鮎」のPR事業として、鮎の放流体験などが実施されています。



○「長良川で乾杯」【ミズベリング】（平成28年～）

水辺で親しむ機会を作るきっかけづくり「水辺で乾杯」は、国土交通省が推進する全国一斉のソーシャルプロジェクトで、夕暮れの毎年7月7日「川の日」の午後7時7分に身近な水辺に集い乾杯をするものです。岐阜市においても、平成28年から「長良川で乾杯」の名称で有志が集まり毎年開催されています。



長良川で乾杯！2020

○長良川かわべのじかんマルシェ（平成29年～）

長良川うかいミュージアムにおいて、「かわべのじかんマルシェ」を平成29年から年2回（春、秋）開催されています。かわべのじかんマルシェは、「長良川河畔での新しい過ごし方を提案することと、長良川畔だからこそ提供できる価値を伝えていくこと」をテーマに、長良川河畔でお店を営まれている方や、ものづくりをされている方など20店舗以上が出店しています。



○長良川まつり

毎年7月16日に神明神社で水難防止と鮎供養を兼ねて行われる祭事です。当日は、鵜匠をはじめとする関係者による鮎供養や観覧船の安全運航祈願のほか、三重塔、鳥居をかたどった、提灯船がお披露目されます。



○鮎供養

鮎供養は、毎年7月16日に長良川まつりとともに行われている。

長良川河畔の神明神社で鵜匠をはじめとした関係者による供養が行われた後、鮎の放流が行われています。



○鵜供養

長良川の鵜飼で活躍し、天命が尽きた鵜の供養と鵜飼の発展のために毎年、長良川の鵜飼終了後の最初の日曜日に、鵜匠をはじめとした関係者による鵜の供養が鵜塚にて営まれています。

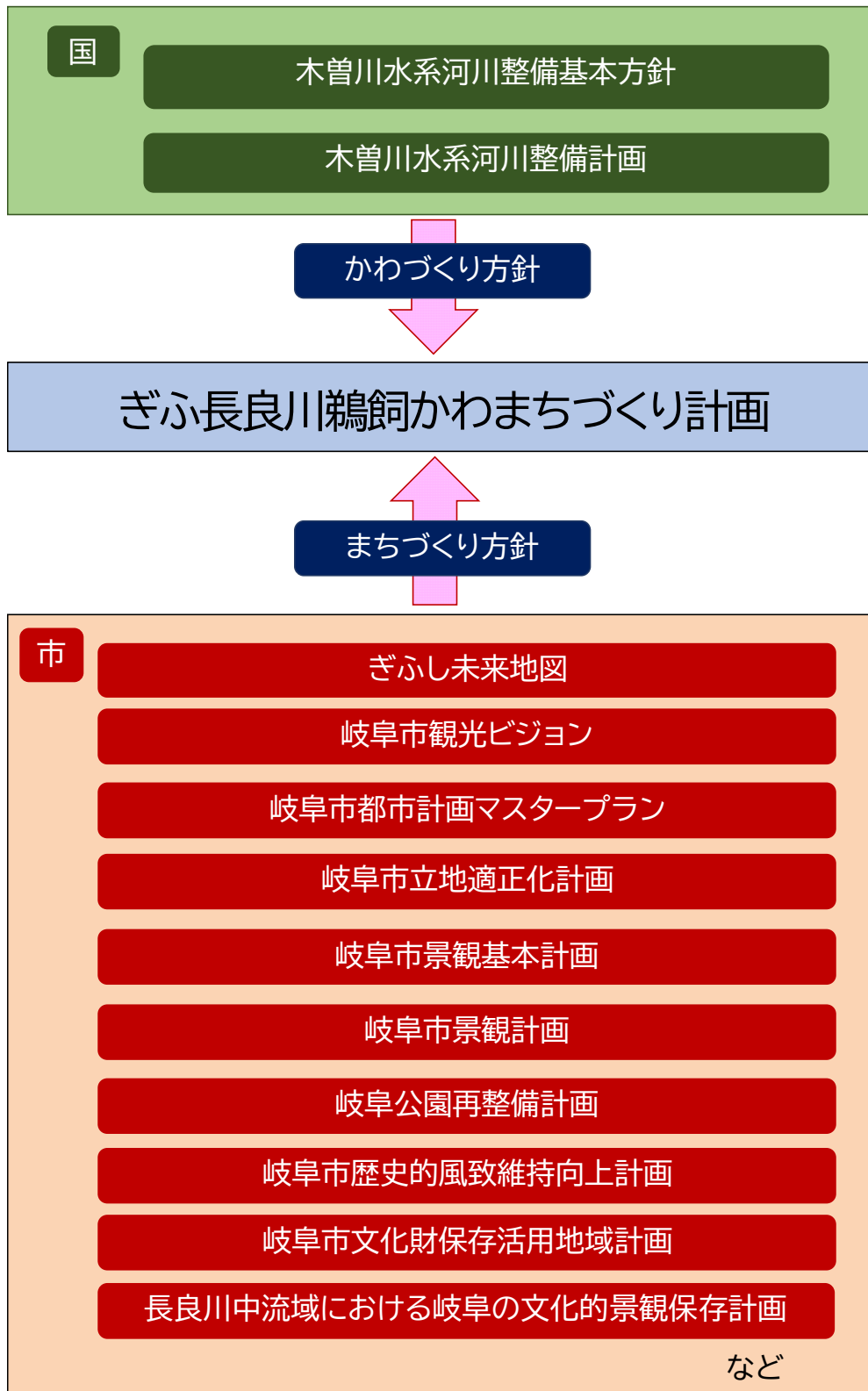
法要後は、長良川河畔に移動し鵜や長良川への思いを詠んだ俳句の短冊を川面に流し鵜の冥福を祈ります。



水辺とまちづくりに関する基本方針

ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画の上位計画としては、長良川の整備に関する、国土交通省河川局の「木曽川水系河川整備基本方針」や、中部地方整備局の「木曽川水系河川整備計画」、岐阜市のまちづくりに関する岐阜市が策定した「ぎふし未来地図」、「岐阜市観光ビジョン」、「岐阜市都市計画マスタープラン」、また、連携して進める必要がある計画に、景観に関する「岐阜市景観基本計画」、「岐阜市景観計画」、「岐阜市歴史的風致維持向上計画」、「長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画」などがある。上記の上位計画・関連計画とぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画の位置づけを下图に示す。

図 ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画の位置づけ



<国>

■「木曽川水系河川整備基本方針」(平成19年11月)

○計画の概要

河川整備の現状、森林等の流域の状況、地形の状況、砂防や治山工事の実施状況、水害の発生状況、河口付近の海岸の状況、河川利用の現状(水産資源の保護及び漁業を含む)、流域の歴史、文化及び河川環境の保全等を考慮し、また、関連地域の社会経済情勢の発展に即応するよう環境基本計画等との調整を図り、かつ、土地改良事業や下水道事業等の関連工事及び既存の水利施設等の機能に十分配慮し、水源から河口まで一貫した計画に基づき、段階的な整備を進めるにあたっての目標を明確にして、河川の総合的な保全と利用を図る。

○長良川に関連する事項

- ・基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項
- ・主要な地点における計画高水流量に関する事項
- ・主要な地点における計画高水水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
- ・主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

■「木曽川水系河川整備計画(変更)」(令和2年3月)

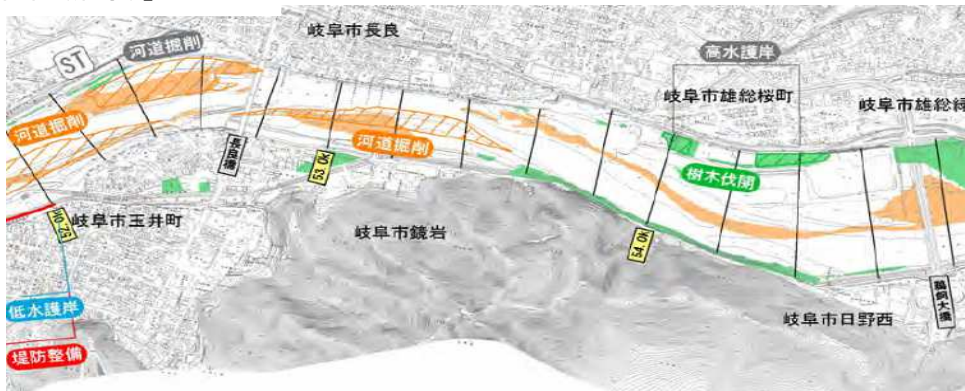
○計画の概要

河川環境の整備及び保全に関するニーズに応えることや河川の特長、地域の歴史、文化などの実情に応じた河川整備を行うため、河川整備の基本となる方針に関する事項〔河川整備基本方針〕に基づき、川と人とのふれあいの増進、具体的な河川整備に関する事項〔河川整備計画〕を定める。

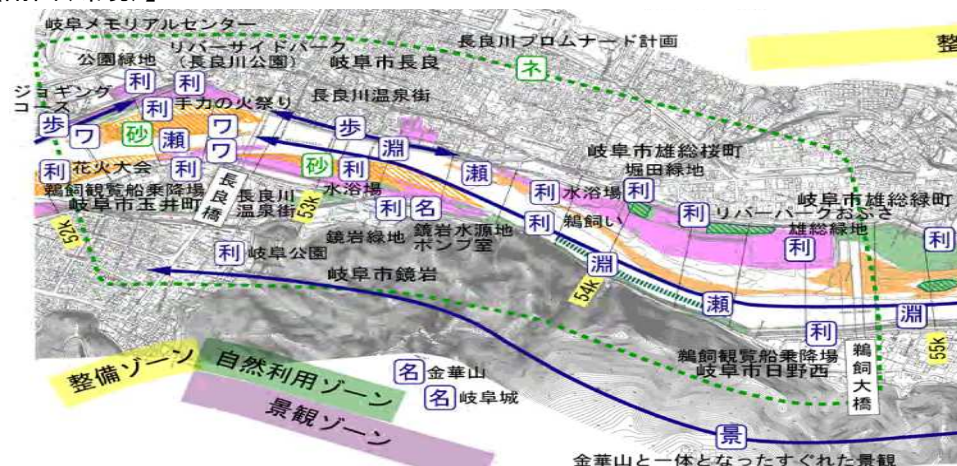
○長良川に関する具体整備(関係箇所を抜粋)

- ・水位低下を目的とした河道掘削・樹木伐開
- ・砂礫河原等の河川環境の整備と保全
- ・水辺のふれあい拠点の整備
- ・広大な砂礫河原等の景観の保全
- ・地域住民やNPO等との連携の推進
- ・かわまちづくり支援制度の活用

【附图(治水)】



【附图(環境)】



木曽川水系河川整備計画(変更) R2.3 より

<市>

■「ぎふし未来地図」(平成30年～)

◆まちづくりの基本理念、将来像

○未来の姿：「ひととまち、集い交わる活力と笑顔あふれる成長都市ぎふ」

○市政運営の理念

- ①人生100年時代の未来を創り、都市を支えるひとづくり
- ②魅力とにぎわいを生み、成長を引き出す活力づくり
- ③つながり、安らぎを感じる持続可能な街づくり
- ④成長都市を支える行政財運営の最適化

岐阜市の地域資源の魅力を磨き高め、新規性や多様性も取り入れながらにぎわいを生み、成長を引き出す活力づくりを進めていきます。

この地域にしかない豊かな自然環境、歴史的なまちなみ、国内外に誇れる文化財など、多くの人々を呼び込む原動力となる他都市にはない地域資源を磨き高め、本物志向の観光まちづくりや中心市街地におけるにぎわい創出などにより産業の活性化を図っていきます。

○歴史・文化など地域資源を活用した観光振興

「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」が日本遺産に認定され、市内には織田信長公ゆかりの岐阜城はじめ、世界農業遺産など国内外に誇れる地域資源やユネスコ無形文化遺産の登録を目指し国重要無形民俗文化財にしてされている「長良川鵜飼文化」などがあり、歴史、文化を活用した観光振興に取り組みます。

○美しい景観形成の推進

自然、歴史及び都市で構成する岐阜ならではの景観をかけがえのない資産として市民の理解を深め、守り、創り、育てていきます。また、そこに住む人々の営みから受け継がれてきた、まちの歴史的雰囲気である歴史的風致についても維持、向上を図ります。

■「岐阜市観光ビジョン」(令和2年～令和11年)

◆観光資源(川)とまちづくりに関する取り組みについて

○目指す姿

「市民と描く」岐阜市未来ツーリズム

～岐阜の魅力を守り・岐阜の観光を育て・岐阜市民の誇りへ～

○基本理念

- ①シビックプライド ～市民の誇りにつながる観光
- ②観光を基軸とした持続可能なまちづくり
- ③稼げる岐阜観光を目指して ～観光振興による産業活性化

○基本戦略

・創る ～岐阜の魅力新発見・再発見

岐阜市の様々な魅力を新たに掘り起こすとともに、既存資源の活用による魅力の再発見につなげ、岐阜市の観光魅力を創造します。

○重点施策

岐阜観光ブランド・魅力創出

～既存観光資源と新たな観光資源の掘り起こしによる魅力創出～

岐阜市には、歴史、文化、自然などを背景に持つ様々な観光資源があります。ぎふ長良川の鵜飼のように過去から脈々と受け継がれてきた「本物」や岐阜城の石垣のように新たに発見された「本物」があります。それらを活かすとともに、観光資源の掘り起こしなどを行い、新たな観光ブランドを構築することにより、魅力を創出し岐阜市への来訪、滞在、消費を促進します。ぎふ長良川の鵜飼、金華山、岐阜城等をはじめとする歴史、自然を背景としたものや長良川温泉、クアオルト健康ウォーキングなど多様な観光資源の磨き上げを行い、観光客の満足度向上、リピーター獲得を目指します。

■「岐阜市都市計画マスタープラン（中央部①）」（平成22年～）

◆計画の概要

岐阜市の都市づくりの基本理念「豊かな自然と歴史に恵まれた環境のなかで、コンパクトな市街地が互いに連携した、安全で安心な活力あふれる県都」のもと、地域特性に応じたまちづくりの方針を示す。

◆まちづくりの基本理念・将来像

○基本目標

優れた自然・歴史・文化を活かした情緒あふれるまちづくり

○基本方針

当市のシンボルである長良川や金華山の美しい自然や、道三公、信長公の城下町として発展してきた歴史・文化などの地域資源を後世に継承するとともに、市民や来街者などが情緒を感じられるまちづくりを目指す。

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性

○景観形成の方針

- ・金華山や長良川などの自然豊かな美しい景観と眺望景観の保全・創出に努める。
- ・金華地区は、岐阜城下町・岐阜町発祥の地であり、当時を忍ばせる美しい歴史的・文化的たたずまいや雰囲気のある景観の保全・創出に努める。
- ・長良川周辺は、1300年の歴史を誇る鵜飼の舞台であり、鵜飼と流域住民が育んできた歴史・文化資源やこれら一体となった歴史的・文化的景観の継承や創出に努める。

■「岐阜市立地適正化計画」（平成29年～）

◆計画の概要

都市再生特別措置法の一部改正を受け、都市の全体を見渡し、「コンパクト+ネットワーク」の考え方で居住と医療、福祉、商業などの生活利便施設がまとまって立地するよう、緩やかに誘導を図りながら、公共交通と連携したまちづくりを推進する。

◆まちづくりの基本理念・将来像

○基本理念

豊かな自然と歴史に恵まれた環境の中で、快適でコンパクトな市街地が互いに連携し健やかに住み続けられる活力あふれる県都

○将来都市像

高度で多様な都市機能が集積した中心市街地と、身近な生活拠点が適切に配置された日常生活圏とが、公共交通など総合的な交通体系により効率的に連絡しあう、多様な地域核のある集約型都市

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性

○都市機能拠点区域

市の活力と魅力の向上を先導する拠点として、観光・コンベンション等の特定の機能を中心とした都市機能の集約拠点を立地特性に合わせて配置し、各拠点機能の強化を推進する。

■「岐阜市景観基本計画」（平成19年～）

◆計画の概要

岐阜市の景観特性と課題を踏まえて、景観形成の基本理念を設定し、岐阜市の景観を構成している景観類型別に景観形成の基本方針を設定する。

◆まちづくりの基本理念・将来像

○基本理念：「美を愛で、美に和み、美に潤う岐阜のまち」～自然と都市を調和させ、歴史と未来をつなぐ景観を創りだす～

○基本目標：1 自然・環境が生きる景観、2 歴史・伝統が再生する景観、3 都市が進化・発展する景観、4 地域の個性を生かした景観

○基本方針：1 豊かな自然の景観を創る、2 城下町の歴史的な景観を創る、3 近過去の懐かしい景観を創る、4 未来へ発展する現代的な景観を創る、5 安全で快適な暮らしと周辺環境に調和した景観を創る

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性

<分類ごとの景観形成基本方針>

・河川景観

長良川や伊自良川等岐阜市の骨格を形成する自然豊かな美しい河川景観の保全・活用を図るとともに、市街地に潤いと安らぎを与える河川空間の形成・活用を図る。

・歴史景観

岐阜の歴史を現代に伝え、伝統ある歴史的建造物や町並み、眺望景観を保全するとともに、地域固有のいわれや物語等、岐阜にとけこんでいる歴史の掘り起こしと活用により、岐阜を語る歴史・文化景観の形成を図る。

・観光地景観

「岐阜」の自然・歴史・文化を感じ、人々の心に語りかけ魅了する観光地景観の創出を図るとともに、金華山・長良川の自然や鶯飼・歴史的な町並み等、歴史・文化を生かした賑わいのある観光地景観の創出を図る。

・拠点施設景観

個性ある拠点施設を生かし、周辺環境と調和した魅力的な景観形成を図る。

<景観づくりは景観まちづくりから>

景観は、地域固有の自然や歴史・文化に、人々の生活が重なりあい、長い年月をかけ形を変えて、「まち」の顔や風景として現れたものであり、まちづくりと景観づくりは切り離せない関係にある。まちづくりには、観光振興や住環境整備、商業の活性化、自然環境保全、歴史・文化財の保全等、様々な分野があるが、景観づくりは、それらの共通のプラットフォームとしての性格を有している。岐阜市では、総合的なまちづくりの推進に向けて、あらゆるまちづくりの機会を捉え、魅力的な景観づくりへと展開する景観まちづくりを積極的に進めていく。

◇規制誘導

- ・景観法の積極的活用、景観条例の更なる充実と運用、景観ガイドラインや景観アドバイザーの更なる活用、良好な景観保全・創出に向けた助成制度等の充実、状況に合わせた様々な手法の活用

◇景観形成事業

- ・景観に配慮した公共事業や公共施設の整備、効果的な景観形成事業の導入

◇普及・啓発・支援事業

- ・市民活動支援システムの構築、市民意識の醸成

■「岐阜市景観計画」(平成21年～)

◆計画の概要

岐阜市景観基本計画に基づき、良好で美しい景観を形成するため、さらに具体的な景観形成の方針やルールの方針及び景観形成上の重要な建築物や樹木の指定を行う。

◆まちづくりの基本理念・将来像

岐阜市景観計画に同じ

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性

○景観計画重要区域における良好な景観の形成に関する方針

◇金華区域

<良好な景観の形成に関する方針>

- ・伊奈波神社や正法寺等の歴史的資源を保全するとともに、周辺においてはそれらと調和した景観を形成する。
- ・川原町及び久屋町等の歴史的風情を湛える町家が連なる町並みや、岐阜らしい趣ある建築物により形成される歴史的町並み景観を保全、創出する。
- ・三重塔や伊奈波神社、正法寺等の歴史的資源への眺めや金華山、長良川と一体となった町並みとが織りなす美しい眺望景観を保全、創出する。
- ・長良川鶯飼等の文化的景観の保全及びそれらと調和した景観を形成する。
- ・岐阜公園及びその周辺では、岐阜の歴史や自然を活かした景観を形成する。

◇金華山・長良川区域

＜良好な景観の形成に関する方針＞

- ・金華山・百々ヶ峰等の山々や長良川の美しい自然景観を保全する。
- ・金華山・百々ヶ峰等の山々や長良川と市街地とが織りなす美しい眺望景観を保全する。
- ・長良川鵜飼等の文化的景観の保全及びそれらと調査した景観を形成する。
- ・自然と調和した落ち着いた雰囲気のある町並み景観を保全・創出する。

■「岐阜公園再整備計画」(平成25年～令和4年)

◆計画の概要

岐阜公園が有する信長公居館跡などの歴史的価値と金華山・長良川などの豊かな自然環境を活かした、本格的な歴史公園として再整備を行う。

◆まちづくりの基本理念・将来像

・基本的な考え方

信長公居館跡等の歴史的価値を伝えるとともに、憩い・学習・交流等の拠点となる本格的な歴史公園へと再整備する。

・基本的な方針

信長公が活躍した戦国時代の歴史的価値の顕在化、歴史的価値を学習するための施設整備
・近代(明治から昭和初期)の歴史的資産や自然と調和した都市公園としての整備

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性

○主な施策

- ・岐阜公園内苑・外苑整備

■「岐阜市歴史的風致維持向上計画」(平成25年～令和4年)

◆計画の概要

まちづくりに係る各主体が連携し、計画的な取組を展開することで、岐阜市に継承されている歴史・文化・自然とそれらが織りなす歴史的風致を維持及び向上し将来世代へ受け継ぐ。

◆まちづくりの基本理念・将来像

○基本方針

維持向上すべき歴史的風致における取り組みの状況及び課題を踏まえ、岐阜市固有の歴史的風致の維持及び向上を図るため、市民や行政等が連携して、岐阜市固有の文化財が一体となって創り出される歴史的風致を保存・活用し、歴史、文化、自然豊かな都市の形成と、岐阜市ブランドの創出・発信を推進する。

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性

○主な施策

- ・長良川中流域の文化的景観保存調査事業、鵜飼観覧船等運航事業、岐阜市長良川鵜飼伝承館事業、ふるさと大好き鵜飼事業、長良川まつり補助事業

■「岐阜市文化財保存活用地域計画」(令和2年～令和11年)

◆計画の概要

歴史遺産の把握と課題の整理を行い、日本遺産を中核としてその周辺を巡ることができる、岐阜市版日本遺産ストーリーと構成文化財を一体で保存・活用するための方針等を定める。

◆まちづくりの基本理念・将来像

○基本方針

継続的な調査研究により歴史遺産の価値を明らかにし、情報を発信して価値やストーリーを皆で共有し、それらを適切に保存して未来に継承し、歴史遺産をテーマとした市民活動を育み、魅力を伝えるために活用し、地域の誇りの醸成と、歴史観光の好循環を創出していく。

○将来像

- ・市民一人ひとりが、地域の歴史を誇り、語れるまち
- ・市民ぐるみで歴史遺産を守り伝えるまち
- ・歴史観光に訪れたくなる、魅力あふれるまち

◆かわまちづくりに関連する取組の方向性 ○主な施策 ・長良川を活用したまちづくりの検討 ・長良川の風景を活かしたイベント開催 ・長良川鵜飼文化保存、活用事業 ・長良川中流域における岐阜の文化的景観保存・活用事業
■「長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画」(平成25年～) ◆計画の概要 伝統文化、歴史、自然等の岐阜市ならではの資産を、文化的景観の概念を導入することにより、包括的かつ重層的に保全・継承し、望ましい景観形成の持続的かつ組織的な仕組みづくりを行う。 ◆まちづくりの基本理念・将来像 ○保存管理に関する基本方針 ・流域固有の自然と重層する歴史により形成された土地利用の継承を図る。 ・流域固有の自然と重層する歴史を物語る有形の諸要素の適正な保存を図る。 ・文化的景観において営まれる伝統的な生活・生業の継承と発展に努める。 ○整備・活用に関する基本方針 ・生活・生業や地域社会の持続性の充実を図る。 ・市民の学びの場としての機能の向上を図る。 ・岐阜市観光の拠点としての魅力の向上を図る。 ・文化的景観の本質的価値に配慮した統一感のある整備の推進を図る。 ○運営体制に関する基本方針 ・文化的景観に関係する諸分野及び諸機関の連携体制を確立する。 ・市民をはじめとする民間による積極的な活動の促進と支援の充実を図る。 ・自然と文化を継承するための長良川流域における広域連携の体制整備を推進する。
◆かわまちづくりに関連する取組の方向性 ○文化的景観における土地利用等に関する事項 □長良川地区 〔現状維持に努める事項〕 ・鮎をはじめとする多様な漁業資源の宝庫として継承することに努め、長良川鵜飼をはじめとする多様な漁撈の良好な漁場としての利用を継続する。 ・鵜飼観覧や水浴場等の利用により、市民や観光客が水と親しむ環境を維持することを目標とする。 〔向上・修景に努める事項〕 ・「木曽川水系河川整備計画」(中部地方整備局)により治水安全度の向上を推進し、良好な自然環境を保全・再生することを目標とする。 □川原町地区 〔現状維持に努める事項〕 ・地区からの長良川への動線を維持するとともに長良川と金華山への眺望を良好に保つ。 ・材木や和紙などの問屋業を支えた伝統的家屋が集積する当地区については、所有者、地元自治会等との調整を図りながら、建造物の価値の維持とそれと一体となって形成されている景観の保存・活用に配慮するよう努める。 ・自治組織及びその活動の場となる街区及び地割の継承に努める。 〔向上・修景に努める事項〕 ・歴史的な道路や建造物を保存し、その他の建造物の修景等を積極的に図ることにより、歴史的・文化的な町並みの継承及び住環境の向上に努める。 ・伝統的家屋をはじめとした建造物等の利用を促進することにより町の賑わいを創出し、観光や散策に適した区域として魅力を高める。 ・鵜飼観覧船造船所とその周辺は、鵜飼観覧の拠点としての機能を継続しながらかつての中河原湊や長良の渡し の場所として長良川と一体となった地区の魅力向上に努める。

- ・地区東側は、岐阜公園、鏡岩水源地、護国神社等の要素と調和した土地利用や景観形成を図り、市民や観光客の散策等に適した地区としての魅力を高める。
- ・川原町広場は、地区内外の交流と賑わいを高める空間として、また岐阜公園とのアクセス性を高めるための空間としての活用を図る。

□鵜飼屋地区

〔現状維持に努める事項〕

- ・地区からの長良川へのアクセスの良さを維持するとともに長良川と金華山への眺望を良好に保つ。
- ・長良鵜飼における鵜匠の居住地としての利用を継承し「鵜飼の里」としての魅力の維持に努める。
- ・自治組織及びその活動の場となる街区及び地割の継承に努める。
- ・長良川プロムナードは、鵜飼の鑑賞や夕涼みに訪れる観光客や住民の憩いの場として、適正な維持管理に努める。

〔向上・修景に努める事項〕

- ・長良橋下の広場から神明神社周辺は、かつての「長良湊」や「長良の渡し」の場所としての歴史の顕在化に努める。
- ・「岐阜市長良川鵜飼伝承館（長良川うかいミュージアム）」とその周辺は、長良川鵜飼をはじめとする伝統文化の観光客や市民への普及啓発の拠点と位置づけ、地区の価値の顕在化を図る。

■かわまちづくりの基本コンセプト

長良川の歴史、文化、景観を 1000 年先も継承し続ける持続可能な地域を目指して ～未来につなぐ岐阜市の財産・長良川～

■かわまちづくりの基本理念

かわまちづくりの舞台となる長良川は、その豊富な水量と良質な水質を誇り、濃尾平野の肥沃な大地を産み、私たち市民は長きに渡り、その恵みを享受してきました。緑豊かな金華山を背景に斎藤道三公、織田信長公が築いた岐阜の城下町は、長良川の水運によってもたらされる美濃和紙や材木などの取引によって盛え、現在も川原町地区・鶯飼屋地区は川湊としての歴史が偲ばれる景観を維持されています。

この長良川では、その地形的特性や水質等により、豊かな魚相が生まれ、流域の人々は鮎や鱒等の漁獲を求め、古くから夜川網、瀬張網等多種多様な漁法を展開し、中でも鶯飼漁は、中世末以降、権力の保護を受けながら現代まで継承され、1300 年以上も続く「ぎふ長良川の鶯飼」は、日本で行われる鶯飼漁の代名詞となっています。平成 27 年 3 月には、「長良川の鶯飼漁の技術」が、国の重要無形民俗文化財に指定されました。鶯飼漁の技術は、過去から脈々と受け継がれてきており、また、鶯飼観覧は中世以来の歴史を持ち、近代以降に船頭や旅館業者をはじめとする多くの地域住民が携わる重要な観光事業として発展し、観覧船造船技術とともに、伝統的な川文化として伝承されています。現代では、長良川の雄大な流れや風光明媚な景観、豊かな自然の癒しを求め、日々、川のほとりを散歩する人々の姿も多くみられ、四季を通じて、多くの市民に親しまれ、岐阜市民の心の拠り所となっています。また、他都市の市街地にある河川と違い、水質の汚濁も少なく、水辺も多く残された、住民と川との親水性が高い稀有な河川です。

前述のように多くの恵みをもたらしてきた長良川ですが、幾度となく起きる洪水により人々の生活を苦しめてきたという一面もあります。特に、当該区間周辺では、観測史上最大流量を記録した平成 16 年 10 月の台風 23 号出水に対して十分な河道が整備されておらず、治水対策が長年の懸念となっています。これらの治水上の課題に対して木曽川水系河川整備計画においては、当該区間の河道掘削及び樹木伐開が位置付けられており、より一層の治水安全度の向上が必要です。1000 年先も継承し続ける持続可能な地域づくりの大前提には「治水」があることから、治水面から見た河川整備と維持管理も欠かすことはできません。このように、市民の心の拠り所である長良川において、先人達から受け継いだ伝統・文化を踏まえつつ、今後も持続可能な地域資源として守り、発展させていくためには、来るべき新しい時代の川との付き合い方を考え、水辺のにぎわいを創出することは、将来に向けて大切であると考えています。

そのため、当市の市政運営の理念の一つである「魅力とにぎわいを生み、成長を引き出す活力づくり」を念頭に、景観形成や環境に配慮しつつ長良川の自然や人々の営みを物語る歴史や文化といった地域ならではの資源を磨き上げ、国内外に発信し、市民のシビックプライドの醸成と地域経済の活性化につながることで、1000 年先も継承し続ける魅力と賑わいに満ちた持続可能なかわまちづくりを推進します。

■かわまちづくりの基本方針

基本理念を実現していくためには、当市における地域固有の資源や特徴を十分に活かしたかわまちづくりを推進していくことが重要です。まずは、持続可能な地域づくりの観点から、治水安全度の向上のための河川整備を進めます。さらに、心の拠り所である金華山や長良川を基盤に形成される空間を、多くの市民が活用し、地域の交流の場とするとともに、観光客にも幅広く親しまれ、地域経済にも寄与しうる有機的につながった場（エリア）の実現を目指します。

対象地域は、リバーパークおぶさが近くにある「鵜飼い大橋付近」から古い町屋の残る歴史ある川原町の「長良橋下流付近」とし、名称を「ぎふ長良川鵜飼水辺エリア」とします。

この長良川では、これまでに多くの民間事業者やそれを取り巻く関係者により、多様な活動が行われています。また、国による護岸整備や本市における長良川右岸プロムナードの整備等環境整備も進められてきたところです。本計画は、これらの活動をもとにさらに魅力的な空間としてステップアップし、地域が誇るべき資源として確立するための方針を示すものであり、長良川が持つ地域資源や特性を活かしたかわまちづくりを推進するため、以下に示す3つを基本方針とします。

◆「守る」：川がもつ本物の魅力と川文化を守る

治水安全度を向上させ、出水から長良川文化を守ります。そして、豊かな自然あふれる長良川を守り、後世に引き継ぐため、環境、景観等を保全していくとともに、川とともに暮らす中で生み出された岐阜独自の川文化を継承するかわまちづくりを推進します。

◆「親しむ」：川がもつ本物の魅力に親しむ

かつて長良川は、人々にとっての格好の遊び場であり、川を泳いで渡ることは子どもたちの間で自慢のひとつでした。現在も遊泳や語らいの場、美しい景観を望む場として多くの人々に利用されています。多彩な野外活動の場として活用することで、川がもつ本物の魅力を生かし、その自然に親しむ安心、安全なかわまちづくりを推進します。

◆「創る」：川の新たな魅力を創る

長良川鵜飼をはじめとした歴史・文化を今に伝え、岐阜市のシンボルである金華山と長良川を背景に、各種の新たな試みを通じて岐阜市の顔となり、国内外に通用する魅力ある空間を創出するかわまちづくりを推進します。

■かわまちづくりの取組方針

基本方針に基づき、以下に3つの取組方針を示します。

以下の表の取組方針を踏まえ、ソフト事業からハード整備事業を含む取り組みを地元や関係団体と連携し展開します。事業実施に際しては、かわまちづくりの舞台となる長良川およびその周辺において、民間事業者による公共空間の効果的な活用「公民連携」を推進し、各事業が有機的な結びつきを持ちながら、相乗効果による魅力向上に資するよう、面としての事業展開を図ります。また、市民にも来訪者にも親しまれる魅力ある「かわまちづくり」の実現に向け、その魅力を広く発信します。

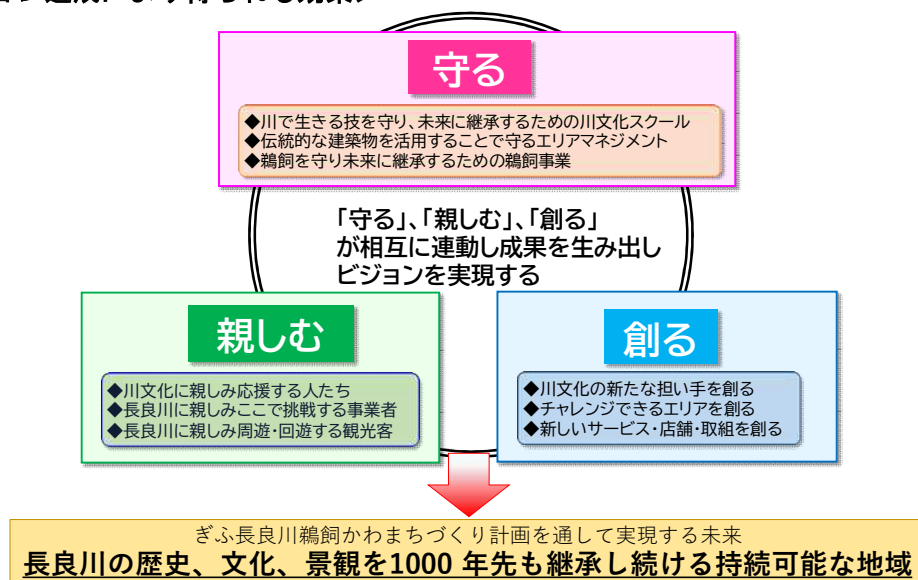
＜取組方針＞

基本方針	取組方針
守る 川がもつ本物の魅力と川文化を守る	○国と連携し、長良川流域の文化の交流拠点として河川整備計画に基づいた河川整備に取り組む ○生態系をはじめ、自然環境や景観の保全に注視し、楽しむことのできる空間形成に取り組む ○地域の営みと調和し、歴史や文化を語り継ぐことのできる空間形成に取り組む
親しむ 川がもつ本物の魅力に親しむ	○過去から脈々と受け継がれてきた川本来の魅力を知り、実感できる空間形成に取り組む ○川本来の魅力を、現代の志向に合わせた活用により、本物が息づく空間形成に取り組む
創る 川の新たな魅力を創る	○現在の川の魅力に加え、新たな視点や隠れた魅力の掘り起こしなどにより、市民や観光客を迎える本市の顔としての空間形成に取り組む ○老若男女問わず、あらゆる人々が本市の魅力を実感し、繰り返し訪れていただけるよう、岐阜市の歴史・文化溢れる「まちなか」と「水辺」をつなぎ、一体感をもった空間形成に取り組む

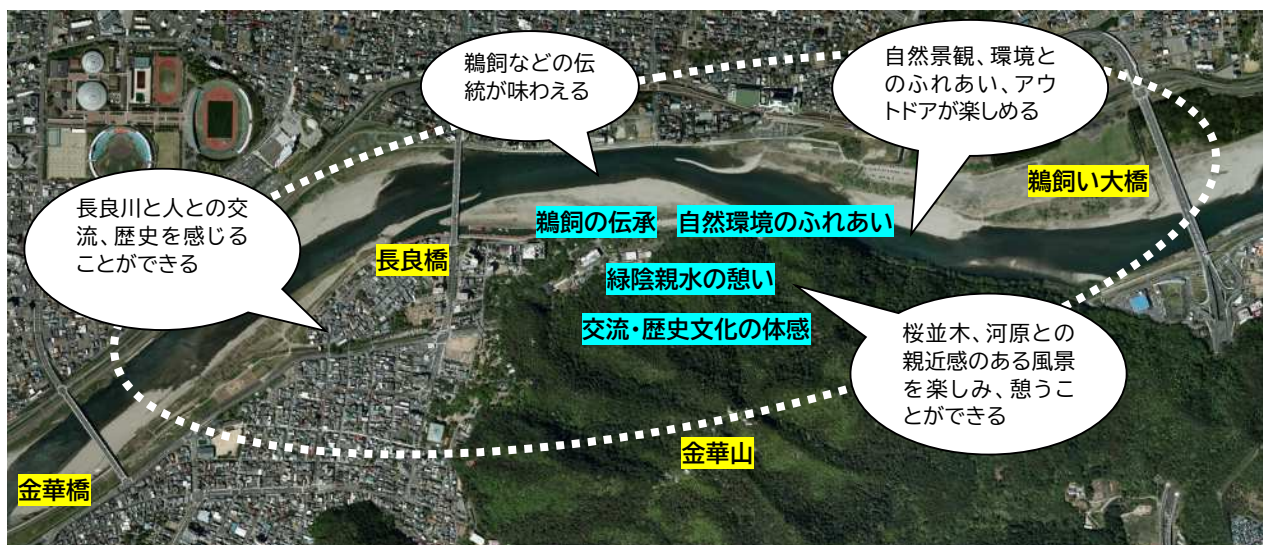
<達成すべきミッション>

項目		課題	取組効果
守る	◆長良川文化・鵜飼の継承	・河川整備計画に基づいた河川整備の実施 ・鵜飼事業の気候変動への適応 ・船頭、船大工、漁師の継承	・出水から生命財産を守る ・出水から観覧船等を守る ・観覧船停留場周辺を観光活用できる ・川文化の継承拠点ができる
	◆長良川右岸プロムナード観光活用	・鵜飼事業の気候変動への適応 ・プロムナードの観光活用への環境未整備	・イベントの活用が進む ・常設活用が進む ・岸から眺める鵜飼の高付加価値化が進む ・日中の活用が進む
親しむ・創る	◆回遊性の向上	・両岸の往来性の低さ ・上下流の往来性の低さ ・回遊を促進するソフト事業の未整備	・往来によるにぎわいの創出 ・相乗効果によるにぎわいの創出 ・エリアの価値が向上し、民間参加が進む

<ミッション達成により得られる効果>



■対象地域：ぎふ長良川鵜飼水辺エリア（鵜飼い大橋付近から長良橋下流付近）



◆全体構想

前頁の達成すべきミッションに基づいた以下3つの軸から、ハード事業やソフト事業の連携を踏まえて、事業の全体構想を整理した。

- ◆長良川文化・鵜飼の継承
- ◆長良川右岸プロムナード観光活用
- ◆回遊性の向上

■ソフト・ハード整備・位置図（次頁の事業スケジュールに対応）

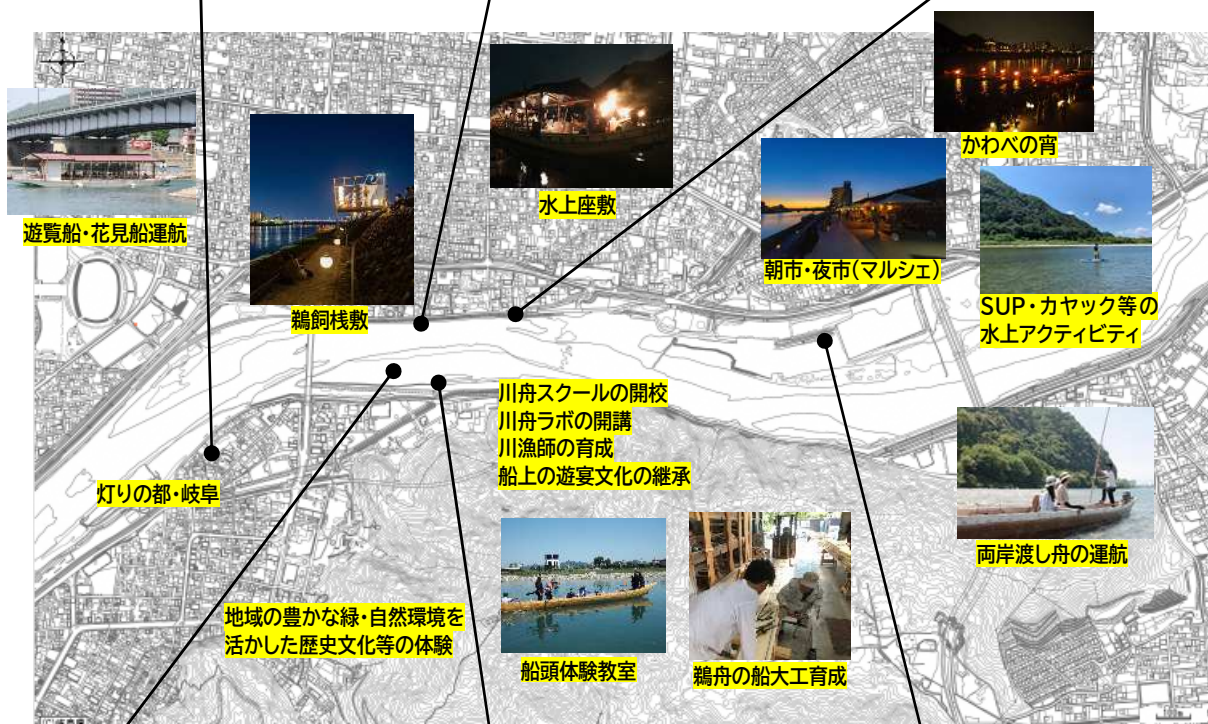
【ハード③ 実施主体:市・民間等】



【ハード② 実施主体:国・市】



【ハード④ 実施主体:国・市】



【ハード① 実施主体:国】



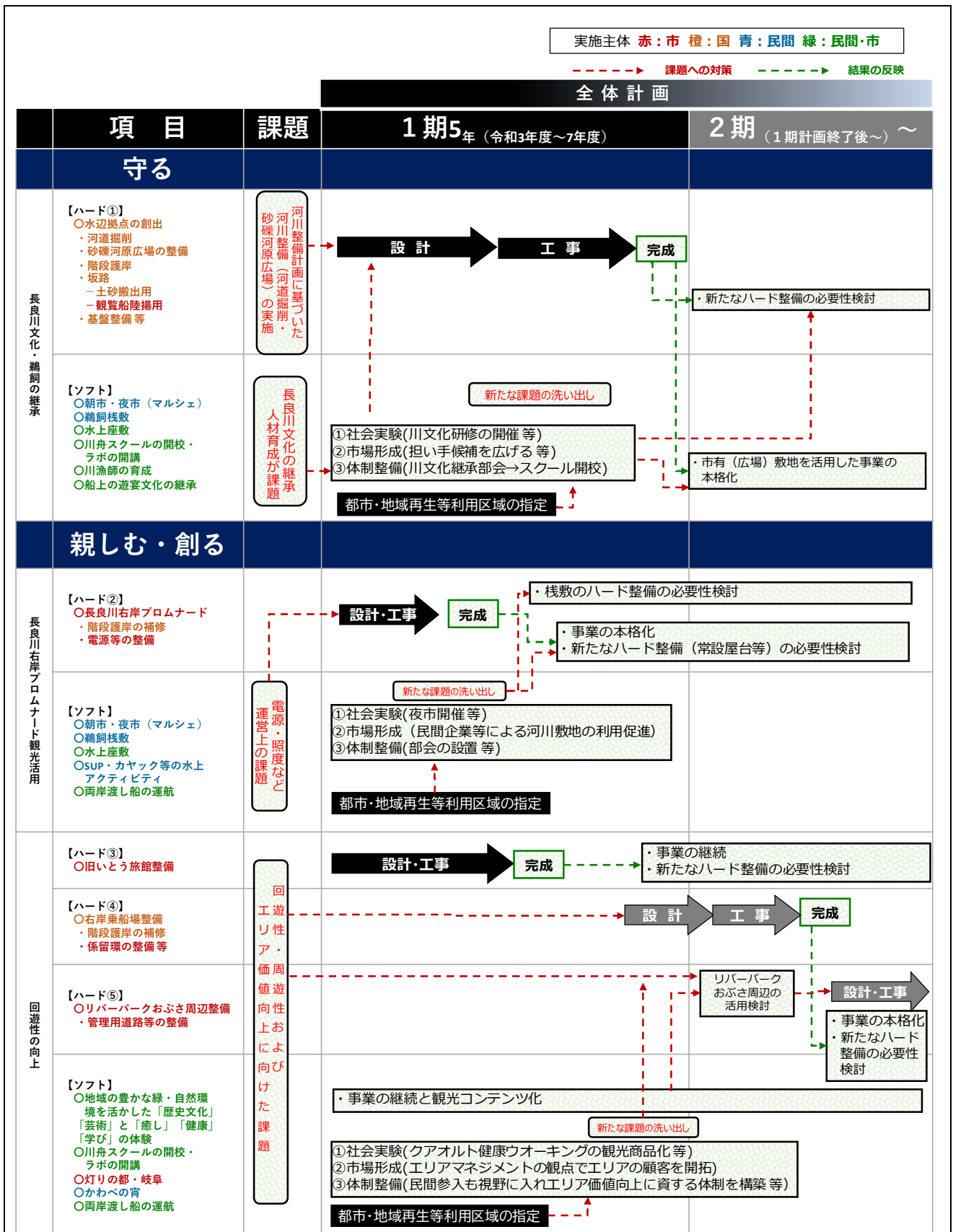
【ハード① 実施主体:市】



【ハード⑤ 実施主体:市】



◆事業スケジュール

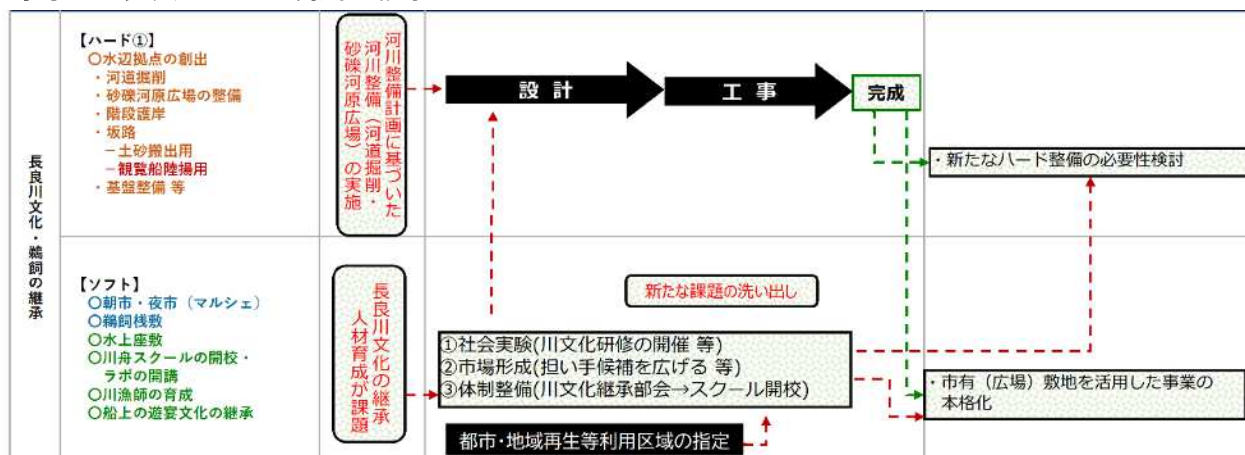


■都市地域再生等利用区域の指定

朝市、夜市、鵜飼棧敷の実施などの事業については、対象となるエリアの再生、活性化に向けて、にぎわいのある水辺空間として有効に活用していくため、河川敷地占用許可準則の特別措置による河川敷地の占用に関する規制緩和を活用して行う。

◆事業概要

■守る <長良川文化・鵜飼の継承>



◆1300年以上の歴史を持つ鵜飼事業を始めとした長良川文化を守る。

近年の豪雨災害では、鵜飼観覧船停留場への土砂堆積、鵜飼観覧船の流出が課題となっている。河川整備計画によると、河道掘削により流下能力を確保すべき区間であるとされており、早急な流下能力の確保により、鵜飼観覧船事業の安心・安全な実施などを通じ、長良川文化を守ることが望まれる。加えて、鵜飼観覧船の引き揚げ坂路を整備し、洪水から鵜飼観覧船を守る整備をする。また、水辺拠点を創出することで、民間利用の促進・人材育成事業の展開を通して、長良川文化の継承を活発化させる。現行の散策路を延長することで回遊性を促進する整備の他にも、前述した治水上のハード整備には、以下のような複層的な意味を持たせることとする。

①川辺での回遊性の向上、長良川左岸上流の市有敷地（以下、「広場」）での民間利用の促進

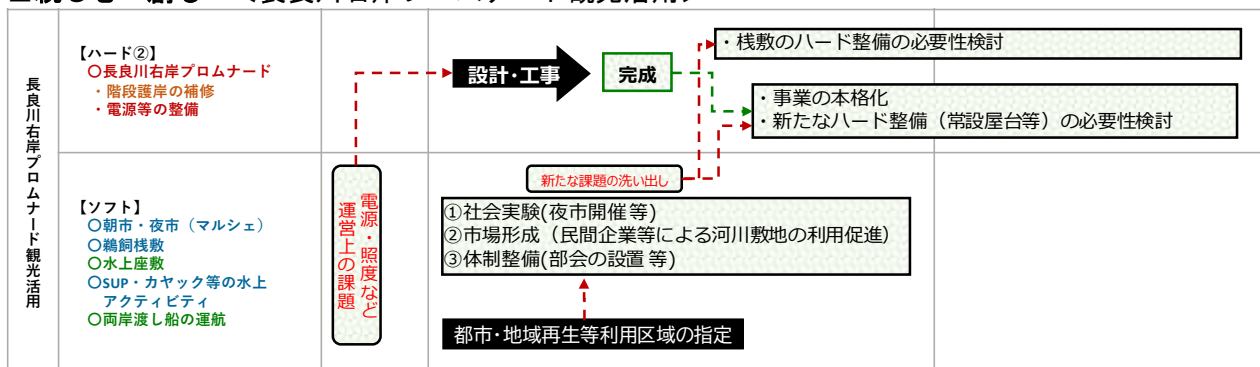
- ・ 停船する鵜飼観覧船、坂路、広場を活用したマルシェ等の実施など
- ・ 本川と停留場の仕切りを整地して、人が歩きやすい整備を行うなど、より川に人が近づきやすい環境として活用

②川文化の担い手による坂路及び広場を活用した人材育成事業の展開

- ・ 鵜飼のみならず、多様な川文化の担い手が拠点とするこのエリアにおいて、高齢化が進む漁師や船頭、船大工の分野で、次世代の育成が急務となっている。

これらの専門技術は、鵜飼文化の継承にも繋がり、川を核とした生業のエコシステム全体を未来に継承するため、「川文化スクール(仮)」の実施を行う。鵜飼関係者が、坂路を活用して船の上げ下げを行い、鵜船や漁船、観覧船など多様な船が陸と川を往来する拠点として活用していく。

■親しむ・創る <長良川右岸プロムナード観光活用>



◆鵜飼観覧船事業のあり方についての見直しの中で、鵜飼観覧の多様性についても考える必要がある。すなわち、鵜飼観覧を船上からの観覧サービスとともに、岸から見られる鵜飼観覧サービスの事業化も検討しなければならない。すでに社会実験により、高付加価値の観覧サービスとして「鵜飼栈敷」や係留した船から見る「水上座敷」などの事業性は模索されており、今後は事業化に向けて進めていく。

①常設的活用

鵜飼実施期間中、プロムナードの川側に腰掛けて鵜飼観覧する観光客に向け、すぐに撤去移動が容易な常設型屋台を設ける。

②期間限定活用

観覧船の代替案として実験された特設栈敷を、すぐに撤去可能な形でプロムナードの川側に設置する。また、少人数の顧客に対して、御座敷遊びや鮎料理など高付加価値な観覧手段を提供する。また、岸に鵜飼観覧船を停船させ、水上座敷席で涼を感じながら鵜飼を楽しむ。

③イベント活用

プロムナードを活用したマルシェの実施結果を受け、プロムナードで出店などを行う際に必要な電源等の調達を行う。これにより、マルシェなどの夜間のイベント実施が容易になる。

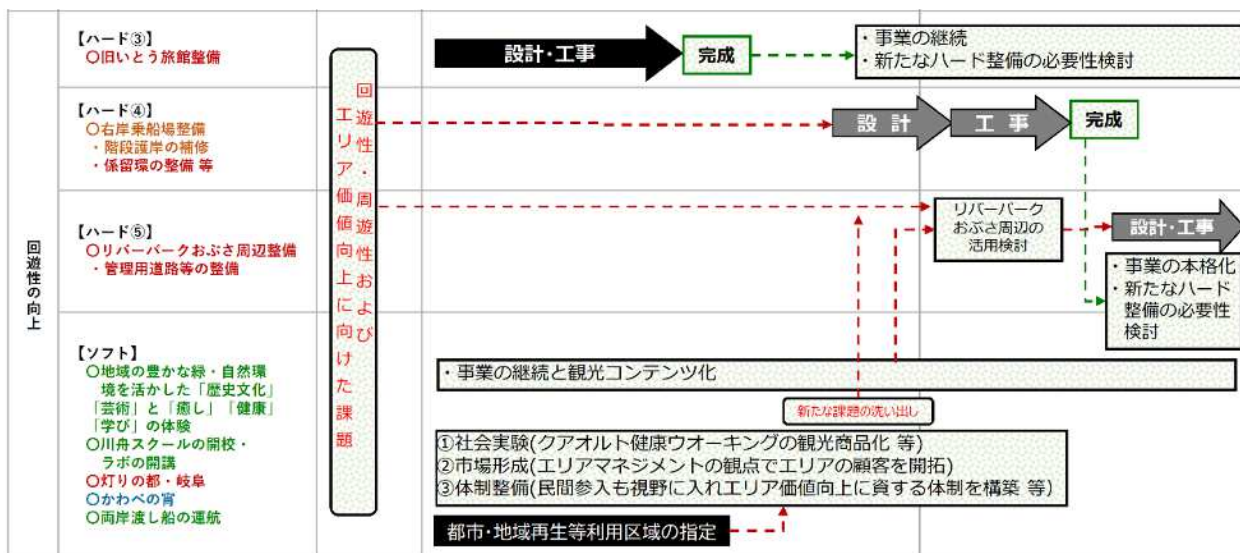
④天候不順時活用

前述の長良川鵜飼栈敷や、プロムナード空間のカフェ活用などは、雨天時には実施できないため、長良川うかいミュージアムなど、水位や天候の影響を受けない場所に常設のウッドデッキなどを整備し、増水・雨天時でも陸からの鵜飼観覧が可能なサービスを提供する。

⑤その他夜間以外の活用

プロムナード空間の日中カフェの活用などを通して、景観を生かした民間サービスを実施する。

■親しむ・創る <回遊性の向上>



◆観光客や宿泊者が、快適に滞在したり、まちなかを散策できるようにするため、歴史的な町並みや景観を活かした整備により、回遊性の向上や交流人口の拡大によるまちなかの活性化を図る。

- ・川原町や岐阜公園がある長良川左岸と来訪者の歩行環境が整備されている長良川右岸プロムナードとは往来することや回遊することが容易でないため、ハード・ソフト両面から両岸の往来、回遊性向上に繋がる整備を行っていく。右岸を安定して観覧船を係留できるよう整備し、また両岸を往来する渡し舟の運航をすることで、左岸右岸との距離感の短縮、回遊性の向上、さらに両岸に位置する観光施設へのアクセスの利便性向上を図る。
- ・近年、川辺でのウォーキングやスポーツアクティビティでの利用が多い中で、その利便性の向上を図るため、鵜飼い大橋付近のリバーパークおぶさ、竹林広場周辺までの動線等を検討する。

①川原町の歴史、文化、誇り、愛着の持てる施設整備と周遊促進

川原町の町並みの歴史や文化の継承、賑わいの創出を図り、地域と歴史と文化をつなぎ、人やモノ、つながりを育むことのできる施設を整備することで周遊への促進に寄与する。

②散策路や乗船場の整備による周辺観光施設等への回遊性の向上

水辺近くに位置するリバーパークおぶさや竹林広場を視野に遊歩道等の整備や右岸の乗船場を整備することで回遊性の向上を図る。

③鵜飼のオフシーズンにおける魅力的なナイトタイムエコノミーの創出

オフシーズンの夜間の観光コンテンツとして、岐阜提灯、和傘、和紙などの岐阜市の歴史文化を活用したイベントを実施し、通年での魅力的なナイトタイムエコノミーを創出する。

④クアパークリゾートの推進と健康ウォーキングなどによる周遊促進

周辺環境を利用したクアオルト健康ウォーキングや地域の観光ホテル旅館などと連携した、安心安全な健康に資する温泉宿泊、地域の安心安全な食材を活用した伝統的なヘルシー食の再開発、食文化体験、滞在中の関連イベントとしての地域住民協働型の各種着地体験のコンテンツ（里川システムを体感できる川遊び、漁師体験、和傘づくり体験、美濃和紙などのモノづくり体験、アロマセラピー、薬草、ヨガ、鍼灸などのマインドフルネス体験など）を実施。

1	河川名 木曽川水系長良川
2	施策の実施範囲 ぎふ長良川鵜飼水辺エリア（鵜飼屋地区、湊町地区、川原町地区）
3	施策概要 かわまちづくり事業（ソフト事業） 守る 川がもつ本物の魅力と川文化を守る ＜新規施策＞ ・朝市・夜市（マルシェ） ・鵜飼棧敷、水上座敷 ・川舟スクールの開校、川舟ラボの開講 ・川漁師の育成 ・船上の遊宴文化の継承 ＜継続施策＞ ・遊覧船・花見船運航 ・鵜舟の船大工育成 ・船頭体験教室 ・世界農業遺産GIAHS鮎の日記念イベント ・環境学習、自然体験学習 親しむ 川がもつ本物の魅力に親しむ ＜新規施策＞ ・SUP・カヤック等の水上アクティビティ ・両岸渡し船の運航 ＜継続施策＞ ・川原町・鵜飼まちたんけん ・レンタサイクル事業 ・文化催事（こよみのよぶね等） ・世界農業遺産GIAHS鮎の日記念イベント ・環境学習、自然体験学習

創る

川の新たな魅力を創る

＜新規施策＞

- ・朝市・夜市（マルシェ）
- ・鵜飼棧敷、水上座敷
- ・地域の豊かな緑、自然環境を活かした「歴史文化・芸術」と「癒し」、「健康」、「学び」の体験
- ・川舟スクールの開校、川舟ラボの開講
- ・かわべの宵
- ・灯りの都・岐阜

＜継続施策＞

- ・クアオルト健康ウォーキング
- ・花火大会等
- ・遊覧船・花見船運航

これまでにも多くの民間事業者やそれを取り巻く関係者により、多様な活動が行われています。これらの活動をもとにさらに魅力的な空間としてステップアップし、地域が誇るべき資源として確立するための取り組みを進めていきます。

◆ソフト事業の概要（補足説明）

●新規	事業名	概要
●朝市・夜市（マルシェ）		朝や夕方に長良川右岸プロナード等で屋台、雑貨、売店、移動販売等を行う。
●鵜飼棧敷、水上座敷		屋形船主体の鵜飼観覧を長良川右岸プロムナード側に停船した屋形船や設置した棧敷等から観覧可能にする。
●川舟スクールの開校、川舟ラボの開講		川舟の造船技術を未来に引き継ぐスクールの開校とその活用や新市場開拓のための研究の場の創出。
●川漁師の育成		川漁を通して長良川の魚食文化を担い、川漁に必要な伝統技法とその道具類の継承とともに川の自然環境を守り、伝える後継者を育成する。
●船上の遊宴文化の継承		日本遺産「信長公のおもてなし」の構成文化財でもある船上の遊宴文化を、継承する取組を行う。
遊覧船、花見船運航		遊覧船をGW期間や花見期間等に遊覧船の運航を行う。
鵜舟の船大工育成		伝統的な技術を有する船大工の指導を受けながら、鵜舟の造船に挑戦することにより、技術を未来に向けて継承する。
船頭体験教室		鵜舟や鵜飼観覧船を操船する体験教室を開催し観光資源とするとともに将来の鵜飼及び観覧船事業の後継者を育成する。
世界農業遺産 GIAHS 鮎の日記念イベント		「清流長良川の鮎」が世界農業遺産の認定されたことを機に7月のGIAHS 鮎の日に子どもたちを対象にした体験イベントを実施（鮎のつかみ取り、伝統漁法の実演など）。
環境学習、自然体験学習		水生生物の調査や水辺に生息する生物を観察し、河川の水質保全や河川愛護などの理解を深める。
●SUP・カヤック等の水上アクティビティ		環境に配慮した水面でのアクティビティ。川でボートの上に立って、パドルを漕ぎながら周囲の風景を楽しむ。
●兩岸渡し舟の運航		長良川左岸と右岸を渡し舟や浮き舟橋などでイベント的に結び、新たな長良川の景観を創出する。
川原町・鵜飼まちたんけん		小学校を対象に川原町や鵜飼屋周辺を散策し、川湊で栄えた川原町の歴史や鵜飼の歴史、当該地域で暮らす人々の営みについて理解を深める。
レンタサイクル事業		岐阜駅から岐阜公園周辺の回遊促進を図る。レンタサイクルポートとして、JR岐阜駅南口前、岐阜公園、長良川うかいミュージアム、メディアコスモス、長良川防災・健康ステーションの5か所で自転車（普通自転車、電動アシスト付き、スポーツタイプ）の貸出を行う。
●地域の豊かな緑、自然環境を活かした「歴史文化・芸術」と「癒し」、「健康」、「学び」の体験		長良川によって育まれた豊かな自然環境を活かし、観光と衣・食・住・活動・学び・クアオルト健康ウォーキングなど多様なコンテンツを有機的に機能させた地域資源活用型の観光地づくりによる長良川エリア一帯のリブランディング事業。
●かわべの宵		長良川右岸プロムナードを活用した新たな鵜飼観覧。岐阜提灯を手にはりながら鵜飼を眺めるイベント。

●灯りの都・岐阜	鵜飼のオフシーズンにおける魅力的なナイトタイムエコノミーの創出。岐阜提灯・岐阜和傘の伝統工芸を活用した灯りイベント。
クアオルト健康ウォーキング	戦国の歴史、伝統文化、豊かな自然を感じながら歩ける「金華山・長良川・岐阜公園コース」でクアオルト健康ウォーキングを普及※。 ※ドイツのクアオルト（健康保養地）で取り組まれている自然の地形や風を活用する運動療法をもとに考案された健康づくりのためのウォーキング。
花火大会等	長良川花火大会、手力の火祭（火薬をふんだんに使った火の祭典）の充実。

※新規施策については、令和３年、４年の２か年において、民間事業者または民間事業者と市の連携による事業主体が社会実験を行い、その後、令和５年に事業者を決定、令和６年以降、事業化する見通しとなります。継続施策についても同様、令和３年以降事業継続する見通しとなります。

<様式5-1>

支援整備内容の概要（ハード施策）

1 河川名	木曽川水系長良川
2 整備範囲	ぎふ長良川鵜飼水辺エリア（鵜飼屋地区、湊町地区、川原町地区）
3 整備内容	かわまちづくり事業（ハード事業） 「守る」 ・水辺拠点の創出（河道掘削、砂礫河原広場、階段護岸、坂路整備〔土砂搬出、観覧船陸揚〕、基盤整備 等） 「親しむ」「創る」 ・長良川右岸プロムナード整備（電源等） ・旧いとう旅館整備 ・右岸乗船場整備 ・リバーパークおぶさ周辺整備（管理用道路等）
（参考）位置図	
<イメージ図>	

ハード施策の個別整備計画書①

1 整備内容名（様式5-1の3に対応） 水辺拠点の創出（河道掘削、砂礫河原広場、階段護岸、坂路整備〔土砂搬出、観覧船陸揚〕、基盤整備〔テラス〕等）
2 整備概要 整備箇所は長良橋左岸上流とする。 ① 木曽川水系河川整備計画において、洪水を安全に流下させるための水位低下対策として「河道掘削」、河川環境の整備と保全として「砂礫河原の再生」が位置づけられている。 ② 河川整備の実施にあたっては、動植物の生息・生育・繁殖環境、景観、鵜飼い、水辺利用、川漁師等に配慮する。 ③ 土砂搬出及び維持管理のための坂路を設置するとともに、水辺利用のためのテラス、テラスから水辺へアクセス可能な階段護岸・スロープ等を整備する。 ④ 整備実施後においては、土砂の再堆積、草地化や樹林化の進行をモニタリングし、適切な維持管理を行う。 ⑤ 既存の観覧船ドック最上流部と土砂搬出用坂路及び陸揚用坂路を接続することで、鵜飼観覧船を低水路外に迅速に陸揚げする。 ⑥ 陸揚した船は、避難場所に退避させる。 ⑦ 人が歩きやすいように整備し、周遊性を高める。
・整備のイメージ <整備前> 洪水の安全な流下、砂礫河原の良好な自然環境の保全・再生、利用可能な水辺整備が望まれる。    <整備後> 治水、河川環境、水辺利用を目的とした一体整備により水辺拠点が創出される。 

横断図



【河道掘削・砂礫河原広場】

【坂路整備 [土砂搬出]

【基盤整備】

整備前



整備後 (イメージ)



【坂路整備 [観覧船陸揚】

【避難場所】

整備前



整備後 (イメージ)



3 整備の必要性、有効性

【治水の観点】

当区間は流下能力の確保が治水上の課題であり、近年の豪雨災害を踏まえると河道掘削による流下能力の向上が急務である。流下能力の向上により、当区間の安全性を向上させることで、安心・安全なまちづくりを狙う。

【河川環境の観点】

河川整備にあたり、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全、及び草地化・樹林化している砂礫河原の再生が望まれる。特に、砂礫河原の再生による伝統的・自然的景観の保全を目指し、魅力向上を狙う。

【水辺利用の観点】

鵜飼・水浴場をはじめとして水辺利用が盛んなエリアであり、より一層の利用促進が望まれる。

水辺へのアクセスを確保するためのスロープおよびテラス等を整備することで、更なる利用促進を狙う。また、土砂搬出用の坂路については、平常時から市が占用し、出水時の鵜飼観覧船陸揚げ用として利活用する。

【観覧船退避の観点】

近年多発している豪雨により、鵜飼観覧船の転覆や流出事案が3年連続で発生している。

河川増水時における鵜飼観覧船の維持管理を、より安全に行うためには、鵜飼観覧船を低水路外に退避させることが最も有効である。

4 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

●河川整備計画

同計画にて、「河道掘削」・「砂礫河原再生」が位置付けられている。

●岐阜市観光ビジョン

岐阜城、金華山や岐阜公園、ぎふ長良川の鵜飼などの既存観光資源と磨き上げを行うとともに、新たな資源と連動させ、“面”としての魅力創出を図る。

●長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画

文化的景観における土地利用等に関し、長良川地区の現状維持及び向上・修景に努める。

●岐阜市景観計画

良好な景観の形成に関する方針に長良川区域が位置付けられている。

・整備工程及び役割分担

項目	事業主体	R3	R4	R5	R6	R7
水辺拠点の創出	国	河道掘削・砂礫河原広場・階段護岸 ・坂路・基盤整備 [テラス]				
	市			遊歩道・係留環の整備		
				観覧船陸揚げ坂路整備		

5 推進体制

- ・治水、環境に係る整備や坂路整備については、上記の整備工程及び役割分担のとおり。
- ・近接する水源地を所管する水道事業管理者と協議しながら進める。

6 有効利用及び維持管理

①有効利用に関する計画

- ・鵜飼観覧船の維持管理計画を含んだ鵜飼観覧船事業の長期ビジョンを検討している。
- ・全国的に災害が続発しているため、恒久的な対応として、できるかぎり早期の整備を目指す。鵜飼は岐阜市の必要な観光資源であるため、観覧船を安全に維持管理することにより、乗船客への持続的かつ安定的なサービスの提供を目指す。また、観覧船に係留所に並べ、係留されている光景を岐阜市ならではの景色として誘客推進の素材として活用することを検討する。

②維持管理計画

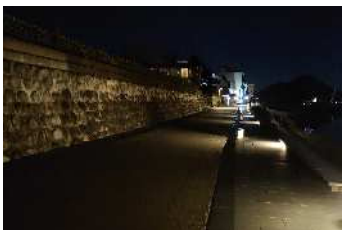
- ・ 坂路、階段、スロープ等は国と市が上記役割分担の中で維持管理を行う。
- ・ 砂礫河原広場については、環境保全に取り組む NPO 法人等との連携を図り、取り組んでいくこととする。
- ・ テラス等の水辺拠点周辺の日常的な管理や清掃や、砂礫河原を含むイベント等利用後の清掃は市又は利用者が行う。
- ・ 河川増水時に、確実に鵜飼観覧船を陸揚する退避計画（ルール）を策定する。
- ・ 隣接地で計画されている国の環境整備と連携して市が日常的な維持管理、清掃等について実施する。

7 特徴（整備概要の①～⑥に対応）

治水、河川環境、河川利用が一体となった整備により水辺拠点整備の特徴を以下に整理する。

- ①整備地区の治水の沿革としては、昭和34年の伊勢湾台風、昭和35年8月の台風11号・12号による洪水ではあふれだした水が岐阜市に流れ込んだため、その対策として川沿いの家を守るためのコンクリートの防水壁、長良橋の両岸の陸閘、川との行き来が出来るように小規模な陸閘が整備された。
その後も度々大きな洪水に見舞われたものの、水防団による懸命の水防活動等により大きな被害は発生していないが、洪水を安全に流下させるための水位低下対策として「河道掘削」を行う必要がある。
- ②当該区間は従来良好な砂礫河原を形成し、金華山と一体となった長良川と鵜飼いの営まれる風情ある河川景観を有するとともに、鵜飼、水浴場として利用されてきたが、草本の浸入や樹林化等で河川景観が悪化するとともに、河川敷特有の河原植物等が生育できる砂礫河原が失われつつある。広大な砂礫河原は、地域に親しまれるとともに長良川温泉・金華山・花火大会などのイベントなど観光資源としても重要な拠点であることから、「砂礫河原広場」による河川環境の改善を図る。
- ③河道掘削及び砂礫河原広場を実施により創出される広大な砂礫河原を利活用し又適切に維持管理するため河川の整備及び維持管理、水辺利用等のため坂路を設置するとともに、水辺利用のためのテラス、階段、スロープ等を整備する。
この整備により、出水時の堆積土砂等による治水機能低下に対して、速やかな緊急対応可能となる。また、鵜飼観覧船等の陸揚げするための経路としても活用でき、鵜飼観覧船等の洪水時流出防止にも寄与する。更に、洪水時の土砂流入により度々埋没する鵜飼ドックの早期復旧を図るための掘削への活用も期待される。
- ④整備実施後においては、土砂の再堆積、草地化や樹林化の進行が想定されるため、定期的及び出水後に地形計測やドローンを用いた空中写真による植生域の確認等のモニタリングを国において実施する。このモニタリング結果を基に国、市、市民等が連携・協力して河道断面の確保や草本や樹木を除去し、治水・環境・水辺利用を維持するよう適切な管理を行うとともに、維持管理を実施していく過程で生じた現場での課題・問題点の解決しながら、状況変化を踏まえて維持管理方法の見直しを図る。
- ⑤観覧船の安全な維持管理が大きな課題となっており、既存の観覧船ドック最上流部と土砂搬出用坂路と接続することで、鵜飼観覧船を低水路外に迅速に陸揚げする。陸揚げした船は、避難場所に退避させる。

ハード施策の個別整備計画書②

1 整備内容名（様式5－1の3に対応）	
長良川右岸プロムナード整備（階段護岸の補修、電源等の整備）	
2 整備概要	
- 整備内容 ① 棧敷や朝市・夜市（マルシェ）などが開催しやすいように階段護岸を補修する。 ② 棧敷や朝市・夜市（マルシェ）などを開催する際の照明器具等電力の供給環境を整備する。 - 整備場所	
	
整備箇所	
【階段補修】 【電源の確保】	
整備前	
	
	
	
整備後（イメージ）	
	
	

3

整備の必要性、有効性

・近年、梅雨時の豪雨や長雨などによって天候が良くても河川の増水により鵜飼観覧船事業が中止になる日もあり、また、with コロナの状況下では3密を避けた形でレジャーを楽しみたいというニーズもある。そこで、栈敷席や夜市を通して、水辺の新しい可能性を創造するイベントを実施し、長良川の鵜飼の風景を楽しむことができるようにする。また、その際にも、近隣の旅館からの食事のケータリングも考えられ、地域商業の活性化に貢献する。

・栈敷を設置する際の足場の設置や鵜飼を安全に観覧するための階段護岸の補修を行う。

・栈敷や朝市・夜市（マルシェ）などの実施する際の電力供給は、近隣の住宅や観光施設に電源等を借りるなど事業者自身での供給に苦労しているため、電源等の整備により、出店や栈敷ステージなどの電力供給が容易になり配線の手間を短縮できる。

4

整備の実現方策

・関連事業の整備計画

●岐阜市観光ビジョン

岐阜城、金華山や岐阜公園、ぎふ長良川の鵜飼などの既存観光資源と磨き上げを行うとともに、新たな資源と連動させ、“面”としての魅力創出を図る。

●長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画

文化的景観における土地利用等に関し、長良川地区、鵜飼屋地区の現状維持及び向上・修景に努める。

●岐阜市景観計画

良好な景観の形成に関する方針に長良川区域が位置付けられている。

・整備工程及び役割分担

項目	事業主体		R3	R4	R5	R6	R7
長良川右岸 プロムナード	国	階段護岸の補修		現況調査、補修工事 ■■■■■			
	市	電源の整備		現況調査、整備工事 ■■■■■	●運用開始		

5

推進体制

・上記の整備工程及び役割分担のとおり整備を行う。

6

有効利用および維持管理

①有効活用に関する計画

・長良川右岸プロムナードの道路空間と河川空間が融合した計画となるよう進めていく。また、長良川うかいミュージアムなどを含めて地域と連携した各種イベントの開催により、地域交流に寄与する。

②維持管理計画

・今後の平時な占用については、市が実施することを前提に都市・地域再生等利用区域の指定を受け、協議会等により、利用方法（ルール）など計画を策定する。

7

特徴

・岐阜大学が実施した気候変動予測の分析によれば、長良川の出水の規模・頻度は高まる方向にあり、大出水による盛土の崩壊や鵜飼観覧船の出航中止や増水による鵜飼の休漁の増加などが懸念される。また、観覧船は出航できないが、鵜飼そのものは実施できるという状況が今後増加するのであれば、鵜飼を新たな観覧方法として岸から観覧し、酒類や食事も提供できれば、人が集い、長良川鵜飼の新たな魅力（違う形での楽しみ方）の創出によるリピーターが増え、新規来訪者の創出、さらに地域への新たな経済効果、観光振興、地域の活性化が期待できる。

ハード施策の個別整備計画書③

1 整備内容名（様式5-1の3に対応）

旧いとう旅館整備

2 整備概要

周辺観光施設等と一体となった面的魅力の向上に資する、既存施設を活かした整備を行う。

・整備場所



整備前



整備後（イメージ）



3 整備の必要性、有効性

- 当施設は、昭和20年代に木造2階建ての旅館として建築され、過去には、NHK大河ドラマ第1作「花の生涯」の原作者である舟橋聖一氏が宿泊し岐阜を舞台とした小説「白い魔魚」を執筆、また、高松宮ご夫妻や鈴木善幸元首相などの要人も利用された。

平成27年12月に、岐阜市が寄附採納し、寄贈者の「歴史あるまちづくりに活かしてほしい」との思いなどを踏まえ、有識者や市民等から意見を聴取しながら活用に向けた検討を行ってきたが、建物の老朽化も進み、まちづくりに資する活用に向けた地元の意向も強いことから、早期の施設整備の必要性が高まっている。

また、このエリアは、長良川に面する絶好の立地に加え、歴史的、文化的景観を有し、本市の代表的な観光エリアに所在することから、既存周辺観光施設との連動による魅力や回遊性の向上等が見込まれるなど、整備による効果が期待される。

4 整備の実現方策

・整備計画

整備の方向性としては、地域特性に加え、昨今のインバウンド需要や岐阜市観光ビジョンに掲げた、「既存観光資源と新たな観光資源との連動による『戦国城下町（岐阜城周辺）エリア』の面としての魅力創出」等、観光振興に資することを念頭に進めていく。

・整備工程

項目	事業主体	R3	R4	R5	R6	R7
業者選定等	市	業者選定、協定締結				
整備、活用等	民間事業者等		整備	運営開始		

5 推進体制

- 整備・運営については、整備の方向性を踏まえ、地元事業者、あるいは地元事業者を含んだ事業体が行っていく。

6 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- かわまちづくりの基本方針に掲げている「創る（川の新たな魅力を創る）」に基づき、市民や観光客を迎える本市の顔としての空間形成に資するよう、人々が集い、景観や生活環境に調和するとともに、周辺の既存観光資源との連動による面的魅力の向上が図られる施設整備を行う。それにより、訪れる人々がこのエリアの歴史、伝統文化、自然を実感できる空間の形成に繋がる。

②維持管理計画

- 施設の維持管理、運営は、民間事業者等が行う。

7 特徴

- 本施設が所在する川原町は、かつて斎藤道三や織田信長公が礎を作った城下町の川湊として発展し現在も往時の繁栄を伝える伝統的家屋（材木や和紙を扱う問屋業等）の町並みが継承されており、清流長良川や金華山などと合わせ「長良川中流域における岐阜の文化的景観」として国の『重要文化的景観』に選定されている。

また、岐阜城・金華山や岐阜公園等、本市を代表する観光地に近接するとともに、本市の食文化や伝統文化に触れられるなど観光客にも親しまれており、既存施設を活用した歴史あるまちづくりにつながる整備を行う。

■かわまちづくり計画に係るこれまでの経緯

協議会について

「かわまちづくり計画」の策定にあたり、市民等を対象とした公開での会議や市民を対象としたパブリックコメントの手続きを行うなど、幅広く意見を伺いながら、その意見を盛り込んだ計画の策定を行ってきました。また、地元自治会連合会やまちづくり団体、観光、商工業及び漁業団体関係者等で構成される協議会及び長良川の活用に取り組む地域のまちづくり団体や観光事業者、学識経験者等のシンキングチームにおいて、計画に対する意見や施策事業の意見交換を実施してきました。

8月3日	第1回ぎふ長良川水辺空間活用協議会 ・協議会の設立について ・水辺空間活用に係る取組の紹介について ・今後の進め方について（事業や計画策定等） [書面開催に変更]
8月6日	第1回ぎふ長良川水辺空間活用協議会シンキングチーム ・水辺空間活用に関する制度及び全国の活動事例について ・シンキングチームについて（設置目的） ・長良川水辺空間活用に係る今後の進め方
8月7日	庁内関係部局・シンキングチーム委員あてに、かわまちづくり計画に掲載する事業の照会
10月16日	第2回ぎふ長良川水辺空間活用協議会シンキングチーム 公開会議 ・かわまちづくり計画の概要について ・かわまちづくり計画への提案事業について
11月19日	第3回ぎふ長良川水辺空間活用協議会シンキングチーム ・令和2年度かわまちづくり関連事業について ・かわまちづくり計画（案）について ・今後のスケジュールについて
12月15日	第2回ぎふ長良川水辺空間活用協議会 ・ぎふ長良川鶴飼かわまちづくり計画（案）について
12月22日～ 1月21日	パブリックコメント（市民意見募集）の実施
1月末	かわまちづくり計画の申請



□構成メンバー

◇協議会

区分	団体等
行政機関関係者	岐阜市/市長
地域住民等の代表等	金華自治会連合会/会長
	長良自治会連合会/会長
地域まちづくり組織関係者	鵜飼屋景観まちづくり協議会/会長
	川原町まちづくり会/幹事
観光・商工業及び漁業団体関係者	公益財団法人岐阜観光コンベンション協会/理事長
	岐阜長良川温泉旅館協同組合/理事長
	岐阜商工会議所/会頭
	長良川漁業協同組合/組合長
長良川鵜飼の鵜匠	長良川鵜飼鵜匠/代表
オブザーバー	国土交通省木曽川上流河川事務所/事務所長
	岐阜県商工労働部観光国際局/局長
事務局	ぎふ魅力づくり推進政策課

◇シンキングチーム

区分	団体等
地域まちづくり組織関係者	NPO法人ORGAN/理事
	NPO法人長良川環境レンジャー協会/理事長
	長良川リバースケープLLP/代表
観光・商工業及び関係者	公益財団法人岐阜観光コンベンション協会/部長
	岐阜長良川温泉旅館協同組合/理事
	岐阜商工会議所/常務
	協同組合岐阜市土産品協会/代表理事
学識経験を有する者	岐阜大学流域圏科学研究センター (兼) 地域環境変動適応研究センター長/准教授
	兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科/特任教授 [国際観光戦略アドバイザー]
行政機関関係者	ぎふ魅力づくり推進部/部長
オブザーバー	国土交通省木曽川上流河川事務所/事業対策官
	岐阜県商工労働部観光国際局/副局長
事務局	ぎふ魅力づくり推進政策課

■岐阜市かわまちづくり計画（案）に対するパブリックコメント手続きの結果

- ・ 募集期間：令和2年12月22日～令和3年1月21日
- ・ 募集結果：意見提出数 2通

電子メール	2通
直接提出	0通
郵送	0通
F A X	0通

勉強会・ワークショップ

■長良川 MIZBERING 勉強会

長良川での『ミズベリング』を検討・推進していくことを目的に、ミズベリングに係る勉強会を国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所が開催された。地域住民、自治体、国土交通省など約 50 名が参加。岐阜市川原町・鵜飼屋地区でのミズベリングの可能性や水辺の新たな利活用の可能性について、事例紹介やワークショップを交えて議論した。

- ・日にち：平成 31 年 2 月 7 日
- ・場 所：長良川うかいミュージアム 四阿
- ・プログラム：

◆川原町、鵜飼屋地区の最近の動き

「長良川おんぱく」や「長良川デパート」、「長良川 STORY」等の地域活性の取り組みや、古民家の貸し出し、アユ焼きのギネス記録への挑戦など、地元で活躍している NPO 法人 ORGAN や地域のまちづくり団体である長良川リバースケープより地域での活動について発表された。



◆全国のミズベリング活動の事例紹介

全国のミズベリングの活動事例を参考に、ミズベリングの目的やミズベリングとしてできることを紹介した。

◆事例紹介／各地域からの話題提供

飛騨市（高原川ミズベリング）、揖斐川町（粕川ミズベリング）から活動紹介

◆ワークショップ ～長良川のミズベを語る～

【テーマ】：長良川でやってみたいこと

あなた（あなたの組織、立場）は、どんなことで実現に向けた協力ができるか。

【主な意見】：

○長良川でやってみたいこと

- ・夏だけでなく、年中通したイベントの実施
- ・渡し舟など、左岸と右岸のアクセス性の向上
- ・流木の有効活用、情報発信（フォトスポット、見どころ等）
- ・飲食、売店（川辺マルシェ、カフェ）
- ・水上アクティビティ
- ・川床、栈敷席の設置 など

○実現に向けた課題

- ・人材、情報発信、組織間連携、法制度（道路占用、河川占用）、地域合意、市役所内組織内合意、リスク管理、安全管理、鵜飼が中止にならない整備・対策



社会実験

○長良川鵜飼の新しい楽しみ方の社会実験「長良川鵜飼棧敷」

鵜飼観覧船の運航は、平成 30 年 7 月豪雨の影響で 42 日間の運休となった。そこで、鵜飼観覧船に頼らない新しい長良川鵜飼の楽しみ方を模索する取り組みとして、令和元年 10 月「長良川鵜飼棧敷」が実施された。(7 日間の計画のうち計 3 日実施 ※台風により 4 日間中止)

長良川では初めてとなる都市・地域再生等利用区域指定に向けた社会実験。

インバウンド（訪日外国人旅行者）をターゲットに、新サービスとして実現可能性の検証が行われた。

■実績・総参加人数：合計 42 名（うち外国人 12 名）

※国籍：アメリカ、ドイツ、フランス、ニュージーランド、アルゼンチン、スペイン、イタリア、スイス、台湾



○長良川まんぷくクルーズ

民間事業者を中心とした実行委員会が、水辺空間を活かした賑わいの創出及び地域活性化のための社会実験として実施した。当市を訪れる観光客等の滞在期間の延長並びに満足度向上への取り組みとして、鵜飼観覧船乗船場付近にて集客イベントを開催し、観覧船に係留し船内を飲食場所として提供するなど相乗効果によるにぎわいの創出が図られた。

実施時期：平成 31 年 4 月 27 日、28 日、29 日、令和元年 5 月 3 日、4 日、5 日の 2 回開催

場 所：鵜飼観覧船事務所周辺及び乗船場付近

内 容：マルシェ型イベント（鮎の塩焼き、高校生による地産地消スイーツなどの販売、金魚すくいなどの子供向け体験）、鵜飼観覧船の係留・解放



○長良川のある日常「かわべの宵（ゆうべ）」

近年、日本各地で多発する豪雨により、長良川においても例外ではなく増水等による鵜飼中止日数の増加の影響が生じている。そこで岐阜商工会議所は『長良川ブランド かわべの宵（ゆうべ）』と名付け、「長良川右岸プロムナード」を活用した新たな鵜飼を観覧する社会実験を令和 2 年 10 月に実施した。参加者は、柄のついた伝統工芸品の岐阜提灯を持って社会的距離を保ちながら歩き、鵜飼漁のかがり火や提灯の幻想的な明かりで「インスタ映え」する風景を演出。岐阜の人々が、身近な長良川の美しさに気づき、自慢したくなる日常をつくりだした。「長良川鵜飼」という非日常が行われながら、それが景色として「日常」の長良川があることを再認識し、岐阜に住む人のアイデンティティを形成する。長良川右岸プロムナードを中心に、四季折々の長良川を楽しむイベントを「長良川ブランド」として定期的に行うことで、長良川右岸プロムナード及び河畔周辺が、末永く市民に愛される憩いの場・にぎわい拠点となり、ひいては活力ある岐阜のまちづくりにつながっていくことになる。



○アンドン夜市リバーサイド

鵜飼観覧の方法は、単に岸から眺めるほか、観覧船に乗ることしかできない状況にあるが、近年の乗船客の減少、新型コロナウイルス感染症の影響による観覧方法の制限などを受け、新しい鵜飼観覧方法を提案。「岸から楽しむ鵜飼」であり、水辺の新しい可能性を創造するイベントを令和 2 年 10 月に社会実験で行われた。

長期的な鵜飼文化を守るため、観覧方法のバリエーションを広げ、地元の人が気軽に鵜飼を楽しむ、あるいは観光客の夜の楽しみを上げる取り組みである。鵜飼を観覧する人を増やし、賑わいを創出し、地域の産業振興、鵜飼文化の裾野を広げていく。

飲食店舗は 10 数店舗出店され、ワークショップなど体験型イベントがあった。階段式の部分を利用して簡易組み立て式屋台を実験的に設置され、鵜飼を眺めながら、ちょっとした休憩や飲食の場となり、今後の鵜飼観覧のあり方を実験的に提案された。



鵜飼船と陸からの見物客

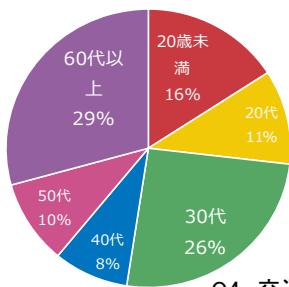


桟敷での芸妓さんの舞

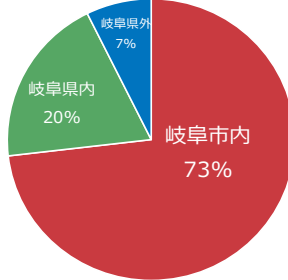
◆アンケート調査の実施

回答：82人（市内60人、県内16人、県外6人）

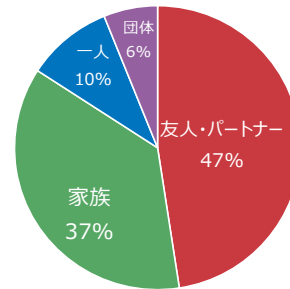
Q1. 年齢



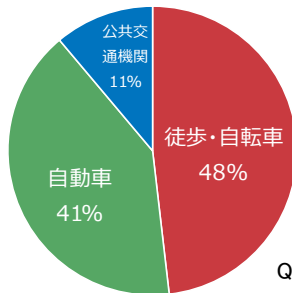
Q2. 居住



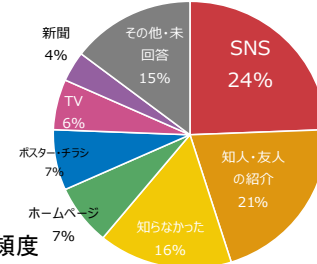
Q3. 同伴



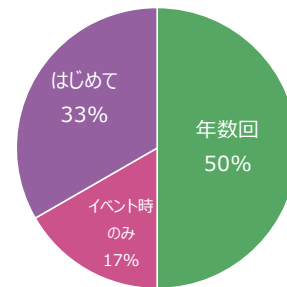
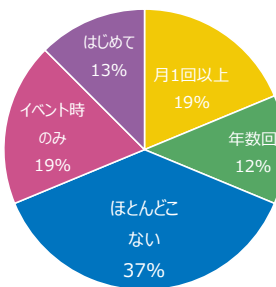
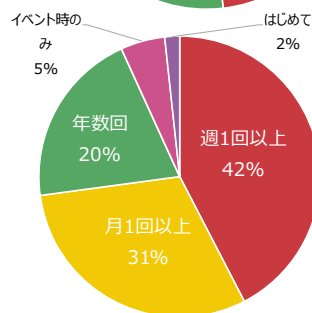
Q4. 交通手段



Q5. 夜市をどこで知ったか



Q6. 長良川を訪れる頻度

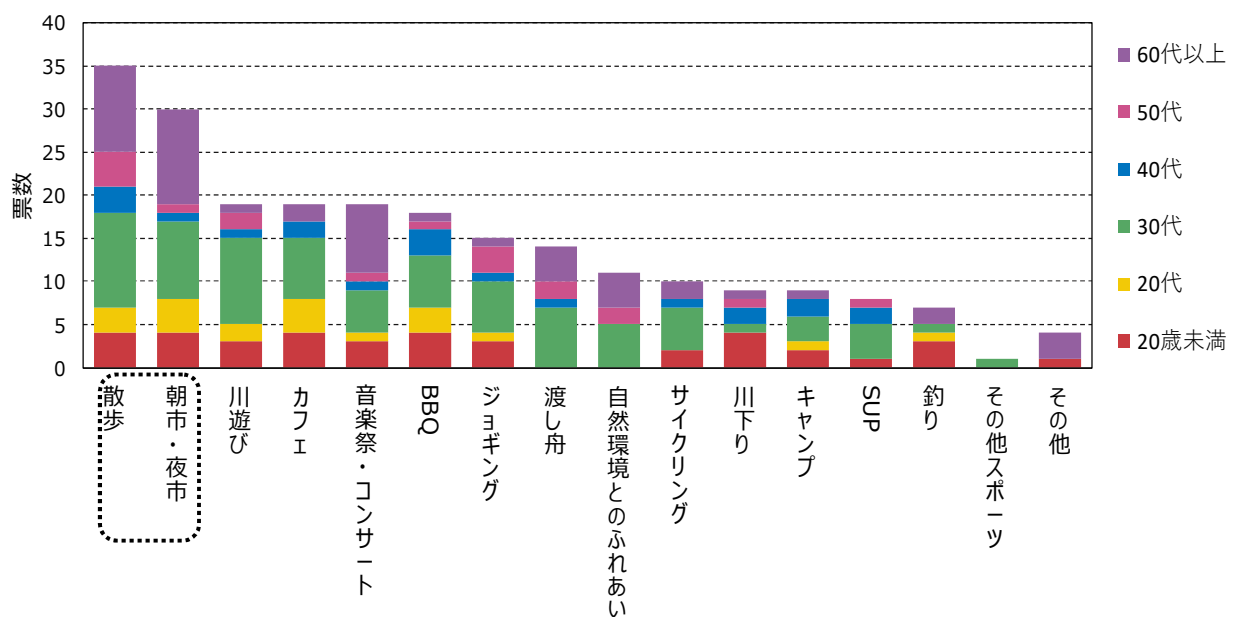


市内在住

県内在住

県外在住

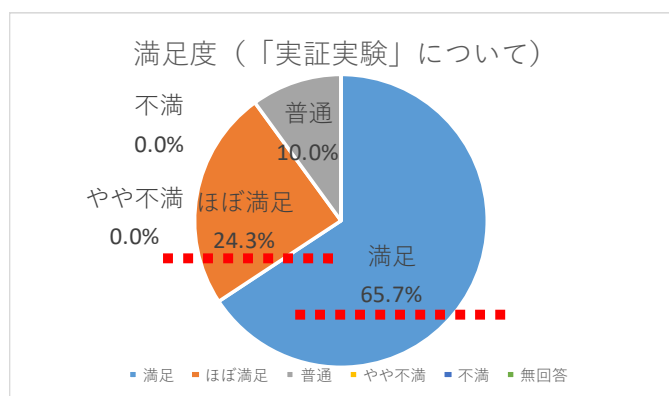
■長良川をどのように利用したいか ※散歩はすべての年齢層で人気、夜市のリピートを望む声多数



○水上座敷

川岸（長良川右岸）に観覧船を係留したまま、船上に観光客等を乗せて鵜飼を見る「水上座敷」を実施。民間事業者との連携による魅力向上につながる観覧方法や水辺のにぎわい創出。

- ・実施時期：令和2年10月4日（日）、10月15日（木）
- ・参加人数：97人（10/4 [かわべの宵]：52人 10/15 [アンドン夜市]：45人）※15人乗り×3隻
- ・アンケート結果：回収率 72.2%
満足＋ほぼ満足 90%



- ・意見（抜粋）
 - 総がらみがよくみえた。船頭さんの鵜飼の説明が大変分かりやすかった。
 - 普段乗れない鵜飼観覧船に乗れた。
 - 親子で楽しめるいい機会だった。
 - 料金が無料で、舟に乗って鵜飼が観覧できることはとても満足。



參考資料

位置図

1 位置

岐阜市は岐阜県南部に位置する中核市で、岐阜県の県庁所在都市である。市域は東西 18.8 km、南北 21.3km、面積 203.60 km²を測る。名古屋から約 30 km、東京から約 250 km、大阪から約 140 km の距離に位置しており、北側は山県(やまがた)市、東部は関(せき)市・各務原(かかみがはら)市、西側は本巣(もとす)市・瑞穂(みずほ)市・北方(きたがた)町、南部は羽島(はしま)市・岐南(ぎなん)町・笠松(かさまつ)町に接している。名古屋市を中心とする中京圏に属し、東海道沿線の主要都市であるとともに、北陸とを結ぶ高山本線の起点の都市である。

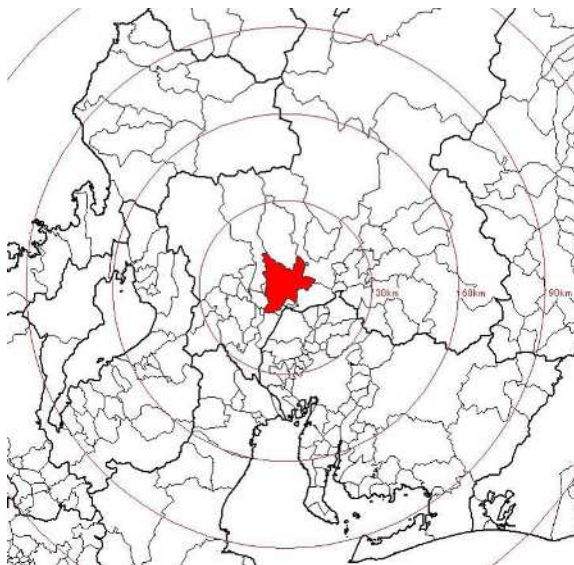


図 岐阜市の位置

(「岐阜市歴史的風致維持向上計画」より引用)

2 地形・地質

市の中央には北東から南西にかけて清流長良川が流れ、金華山を境に北側には美濃山地、南側には濃尾平野が広がる多様な地形を有している。

山地地形のうち、主なものは北西から南東に延びる岐阜～各務原(かかみがはら)山地で、その最高峰は百々ヶ峰(どどがみね)の 417.9m である。また、小規模な残丘状独立山体が市の南東部に点在しており、市街地から緑豊かな景観を眺めることができる。

一方、長良川・木曽川等が、砂礫を運搬し、沈降して低地をつくったのが濃尾平野である。長良川の平野部への出口には扇状地が旧市街地に広がっており、その下流側には氾濫原が広がり、旧河道が残した高まりである自然堤防と氾濫平野とに分けられる。

美濃山地は、地質的には主として古生層の岩石によって構成され、濃尾平野を構成する地質は、第四紀(約 200 万年前から現在)の新しい堆積物よりなる。そのうち岐阜市中心部は、長良川が形成した緩やかな扇状地上にあり、その下流域には氾濫原が広がり、木曽川、長良川を始めとする河川が形成した自然堤防の高まりが分布する。

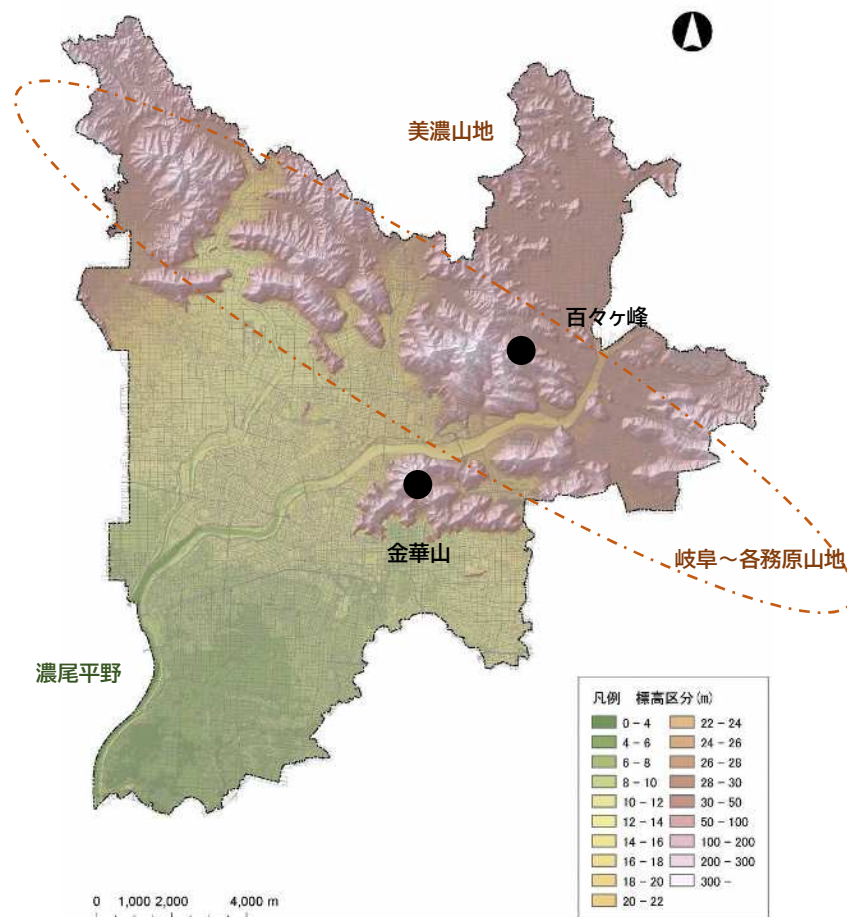
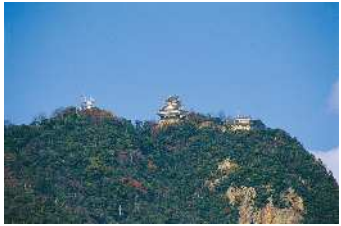


図 岐阜市域における標高区分
 (『長良川中流域における岐阜の文化的景観保存調査報告』より引用)

<参考2>

岐阜市長良川周辺の主な地域資源

資源	長良川	長良川の鵜飼	岐阜市鵜飼観覧船事務所
写真			
資源	長良川温泉	川原町界隈	金華山
写真			
資源	岐阜城	岐阜長良川花火	岐阜公園
写真			
資源	長良川の鮎	岐阜提灯	水うちわ
写真			
資源	岐阜和傘	長良川薪能	長良川まつり
写真			

ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画

令和3年1月〔国登録：令和3年3月19日〕

発行：岐阜市

編集：岐阜市ぎふ魅力づくり推進部ぎふ魅力づくり推進政策課

〔住所〕〒500-8701 岐阜市今沢町18番地

〔電話〕058-265-4141（代表）

〔E-mail〕gifumiryoku-sei@city.gifu.gifu.jp